世界が進むチカラになる。

MUFG

成長を生み出すMUFGのチカラ

2026年10月

三菱UFJフィナンシャル・グループ

本資料には、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（以下「当社」という）およびそのグループ会社（以下「当グループ」という）に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。

このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、統合報告書、ディスクロージャー誌、アニュアルレポートをご参照下さい。

なお、本資料における将来情報に関する記述は、上記のとおり本資料の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

また、本資料に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

なお、本資料の計数は日本会計基準ベースの数値（本邦の管理会計基準を含む）を使用しています。

目次

MUFGの”いま” 4

MUFGのチカラ 16

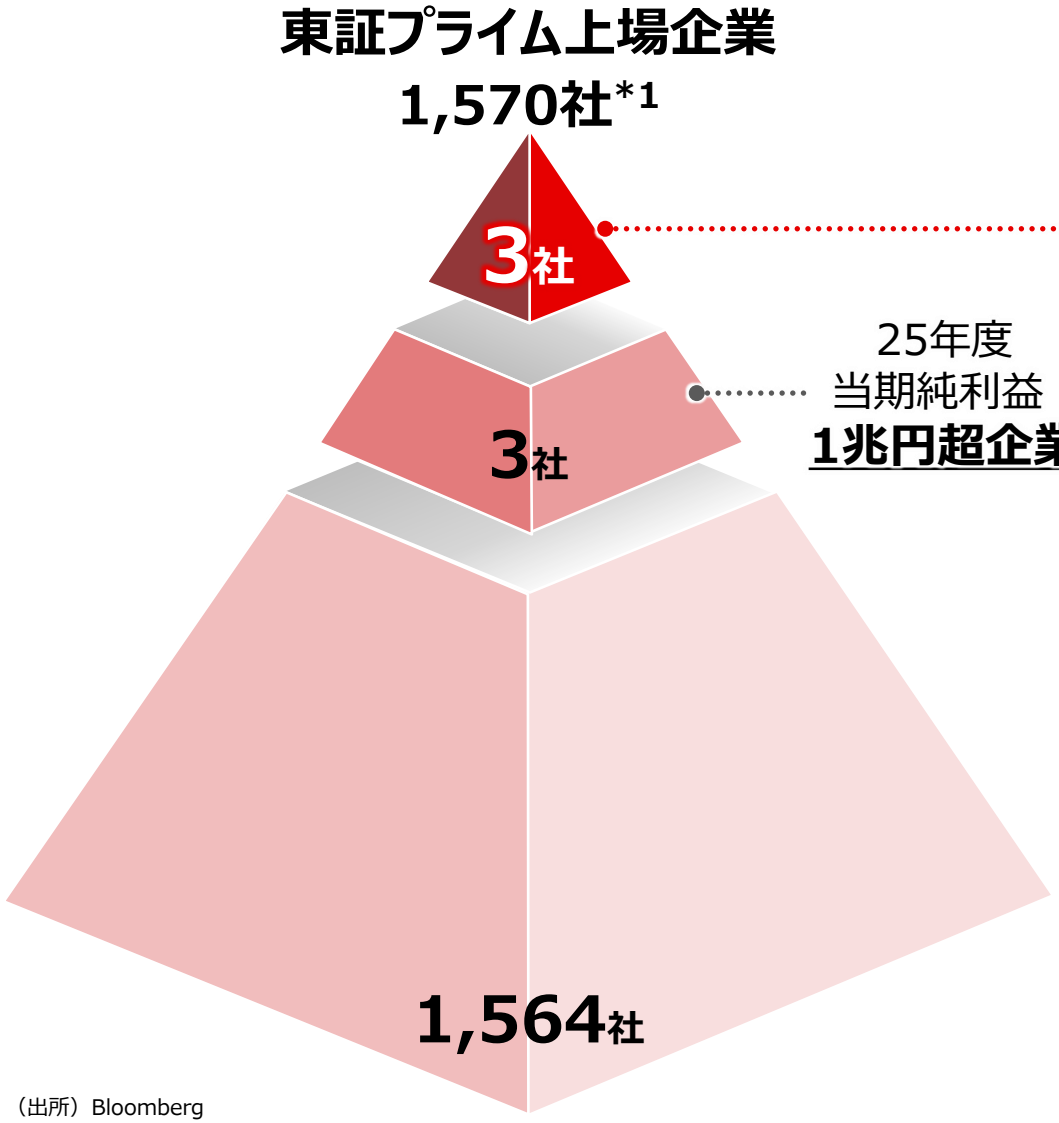
MUFGのチカラ 16 ※開催後追加

Part1
MUFGの“いま”

MUFGの“いま”

2兆円突破

MUFGの“いま” –親会社株主純利益2兆円を超える企業



（出所）Bloomberg

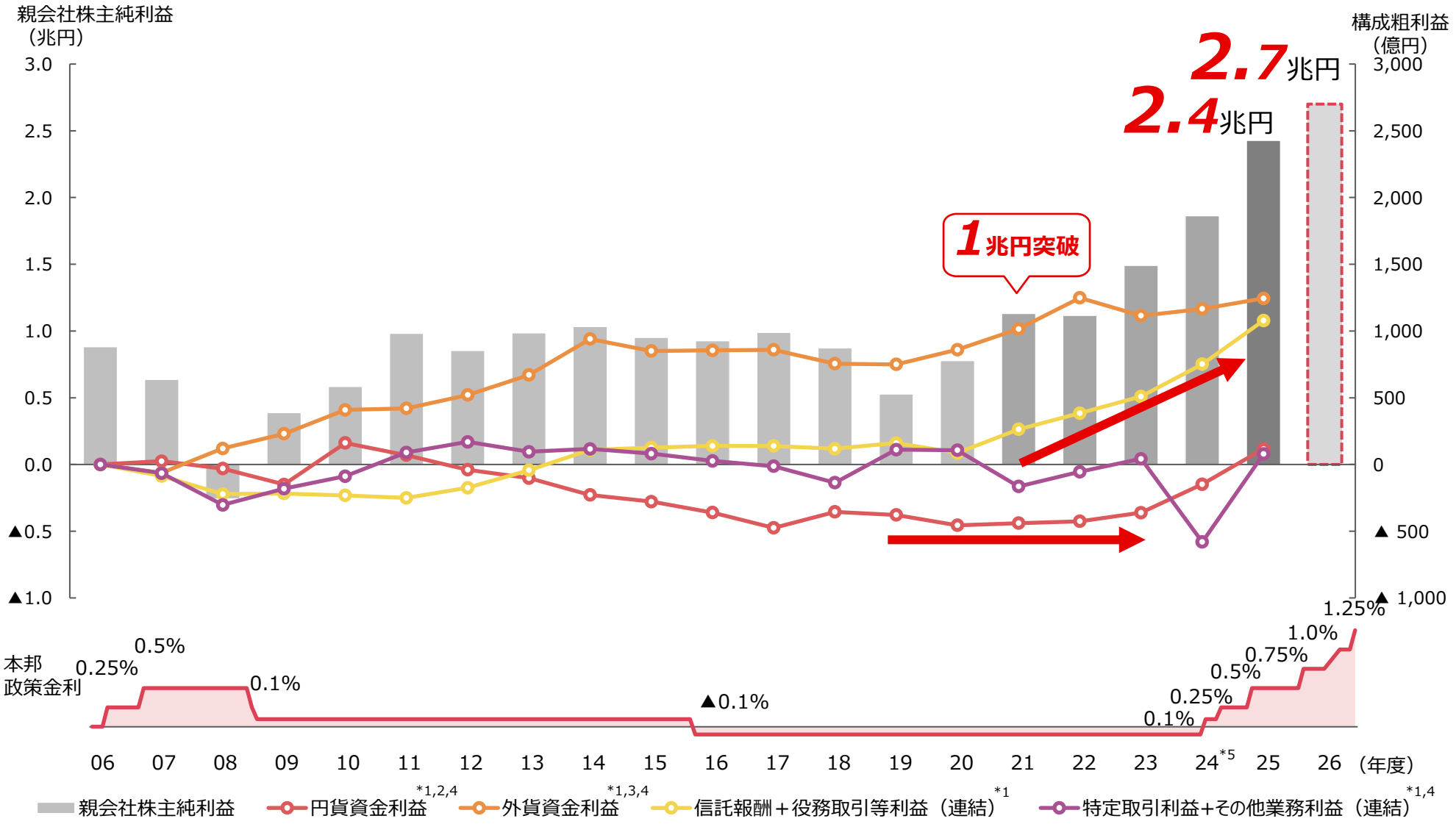
親会社株主純利益
2兆円超企業

Top 3

MUFG

*1　2026年3月末時点の東証プライム上場企業数

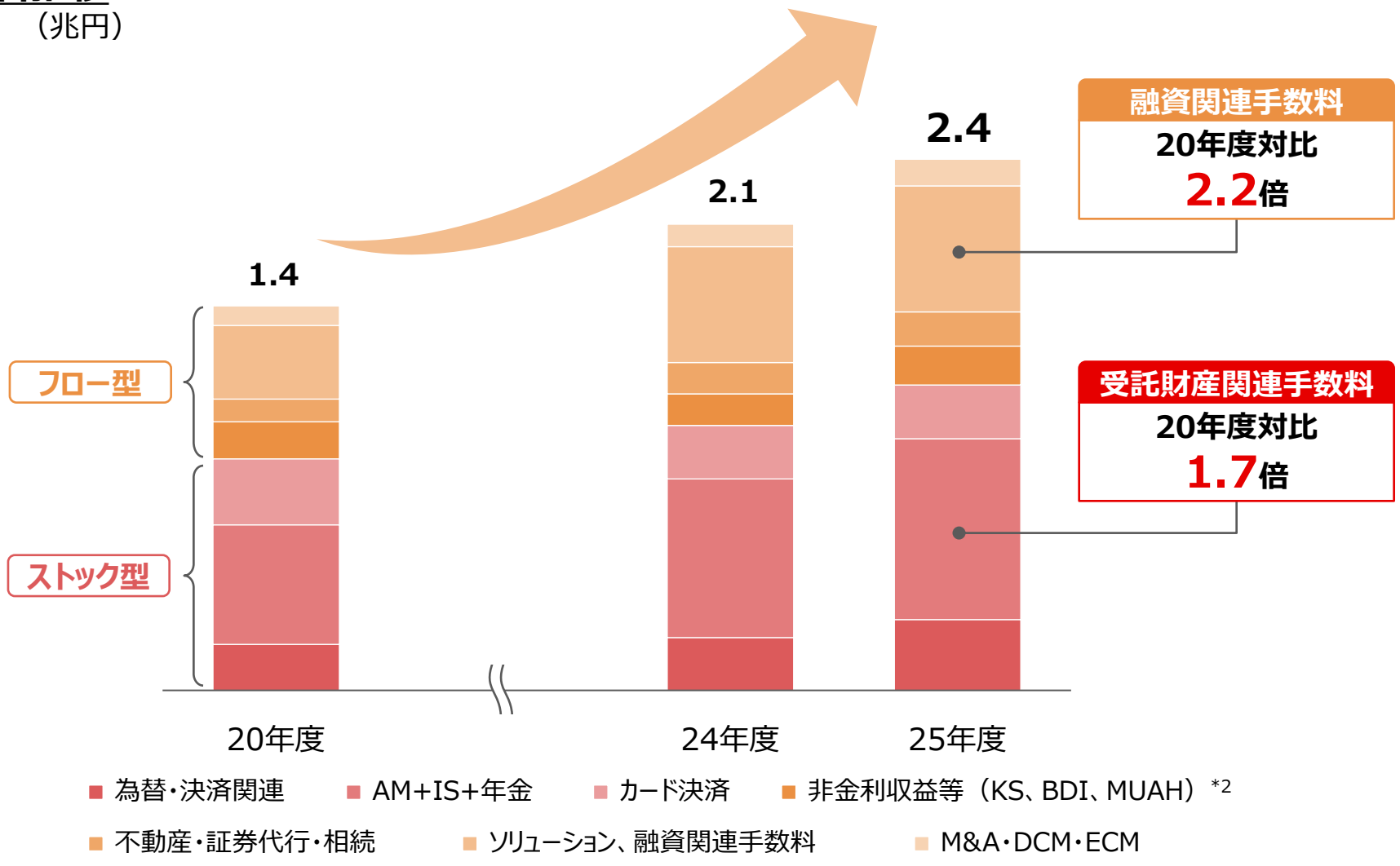
MUFGの“いま” –親会社株主純利益と構成粗利益



*1 管理計数。06年度対比の増減額 *2 銀行、信託、ニコス、アコムの合算値。銀行、信託のみ子会社配当金を除く
*3 銀行、信託、米州MUFGホールディングスコーポレーション、クルンシィ（アユタヤ銀行）、ダナモン銀行の合算値。銀行、信託のみ子会社配当金を除く *4 22年度以降は投信解約益を調整
*5 24年度の構成粗利益は、クルンシィ（アユタヤ銀行）決算期変更影響を除く

MUFGの“いま” –競合他社との違いは「強い手数料収益」

手数料推移*1



*1 総計は財務会計。内訳は社内管理上の計数（為替影響、基準変更を含む）。20年度のみMUFG Union Bankを含む。
*2 カッコ内はクルンシィ（アユタヤ銀行）、ダナモン銀行、米州MUFGホールディングスコーポレーション。 24年度はクルンシィ（アユタヤ銀行）決算期変更影響除く

企業価値向上のしくみ


企業価値
PBR
株価
1株あたり純資産
=
収益力
ROE
1株あたり純利益
1株あたり純資産
×
成長期待
PER
株価
1株あたり純利益

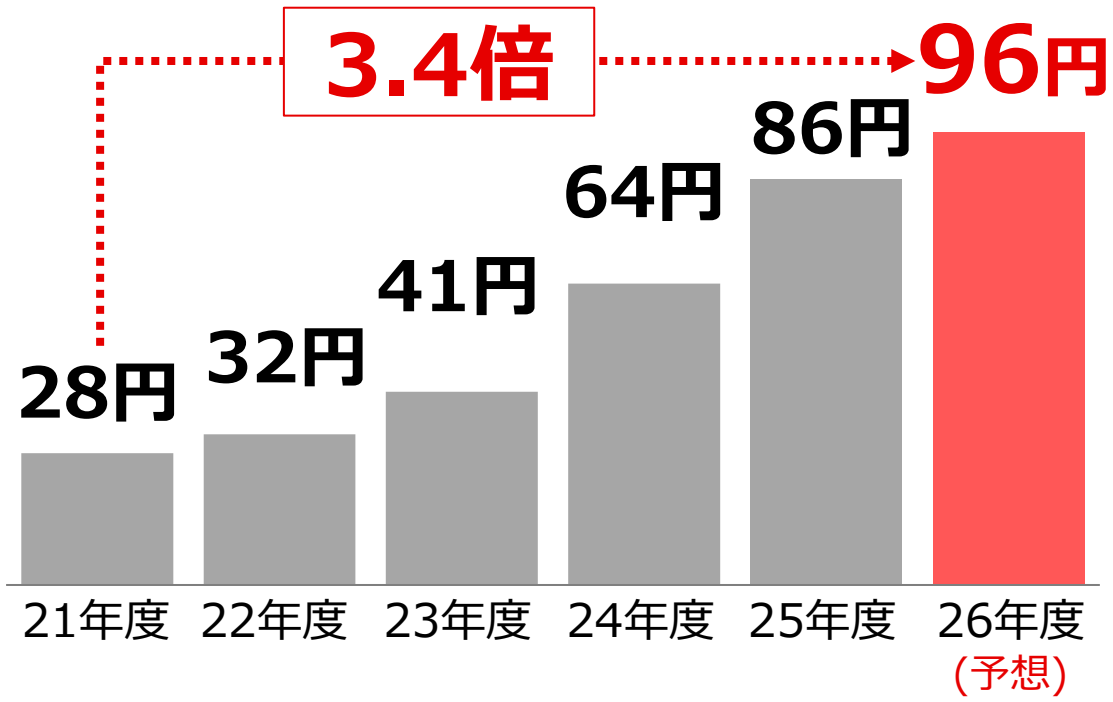
利益成長は配当にも直結



MUFGの“いま” –株主への還元の実績

一株当たり配当

累進的な配当



26年度

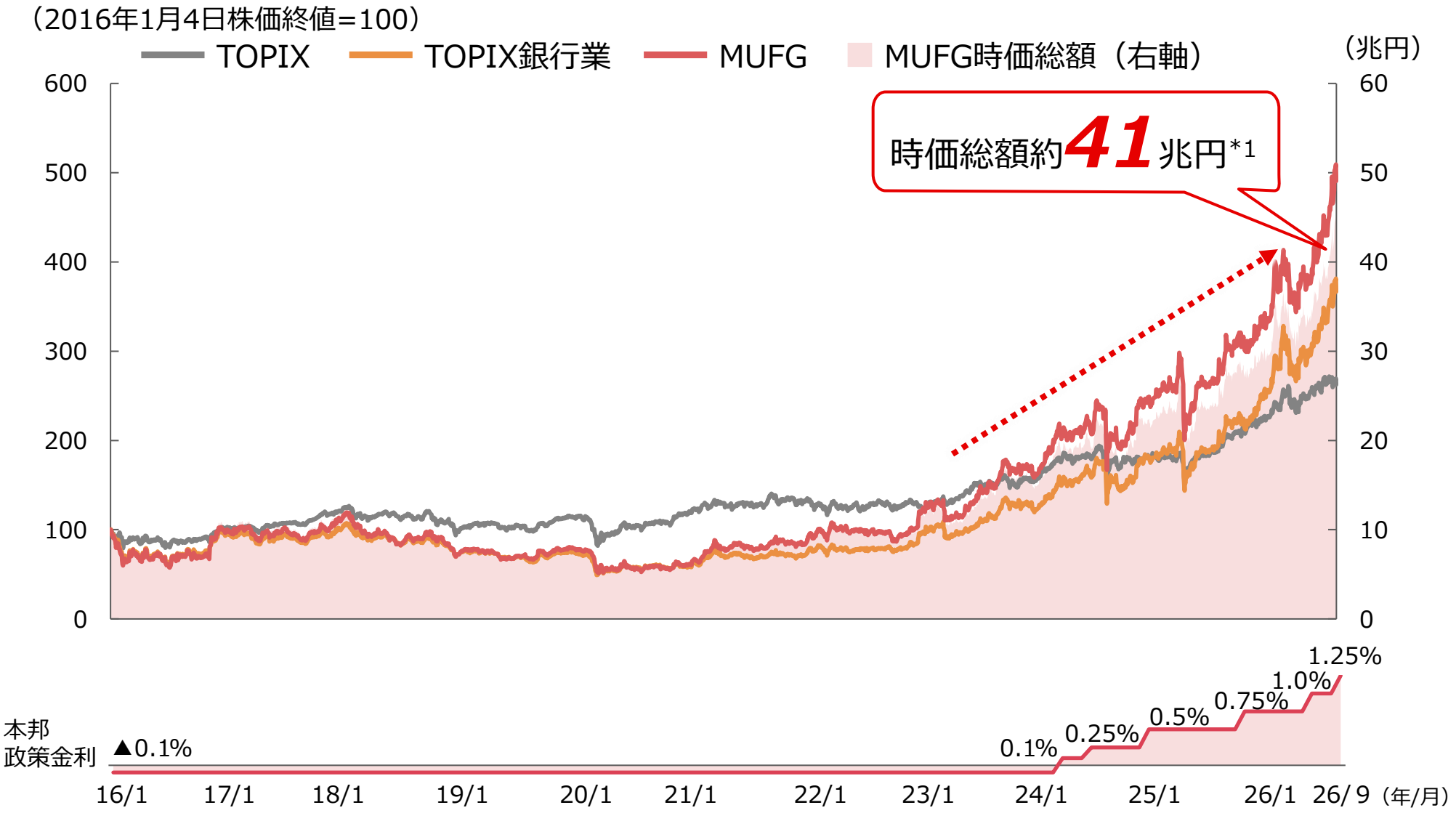
増配予想

＋10円

自己株式取得

1,000億円
（上期）

MUFGの“いま” –マイナス金利解除前後の株価推移



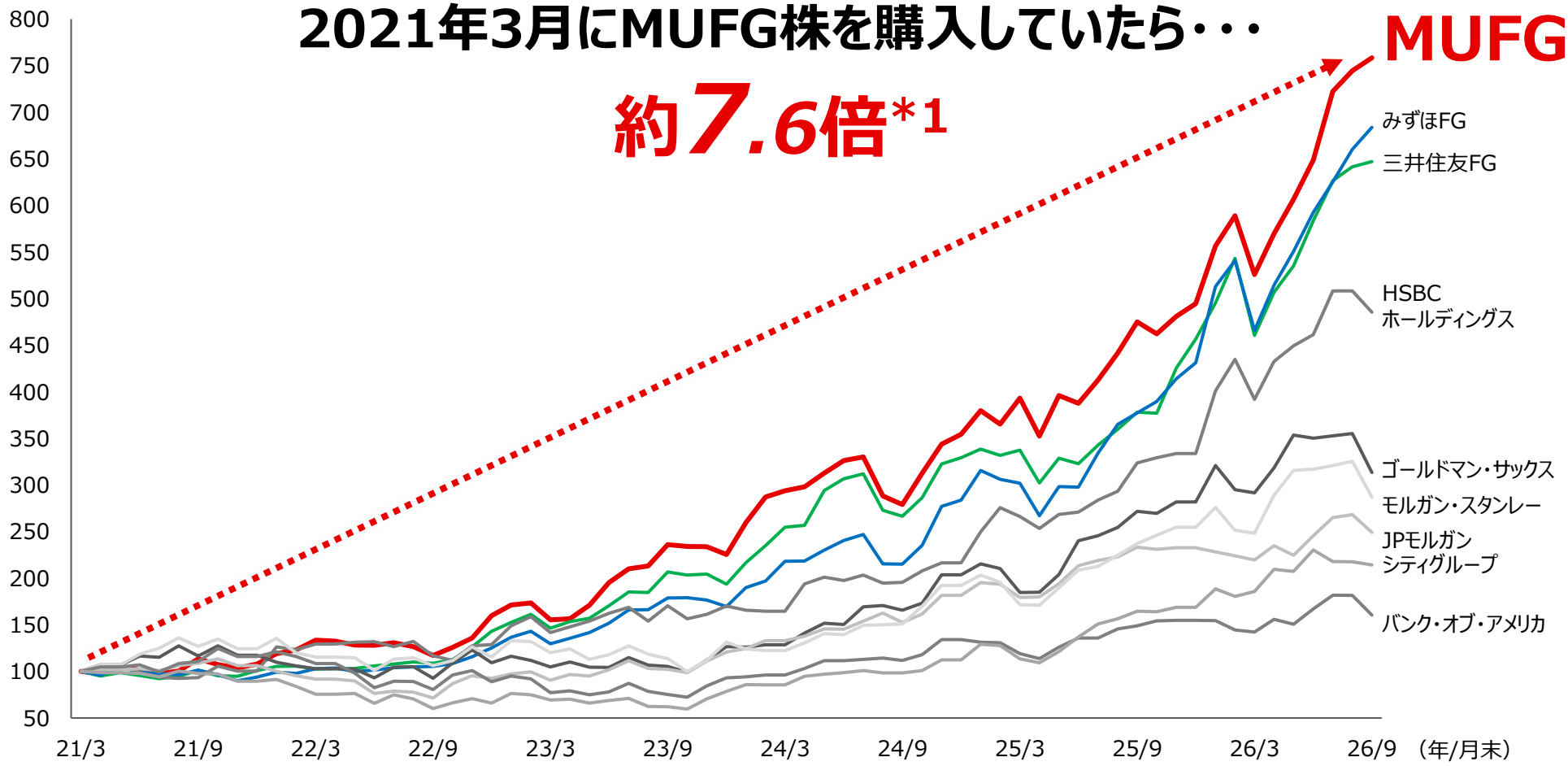
（出所）Bloomberg

*1 2026年9月末時点（自己株式を除く）

MUFGの“いま” –成長 + 還元の推移

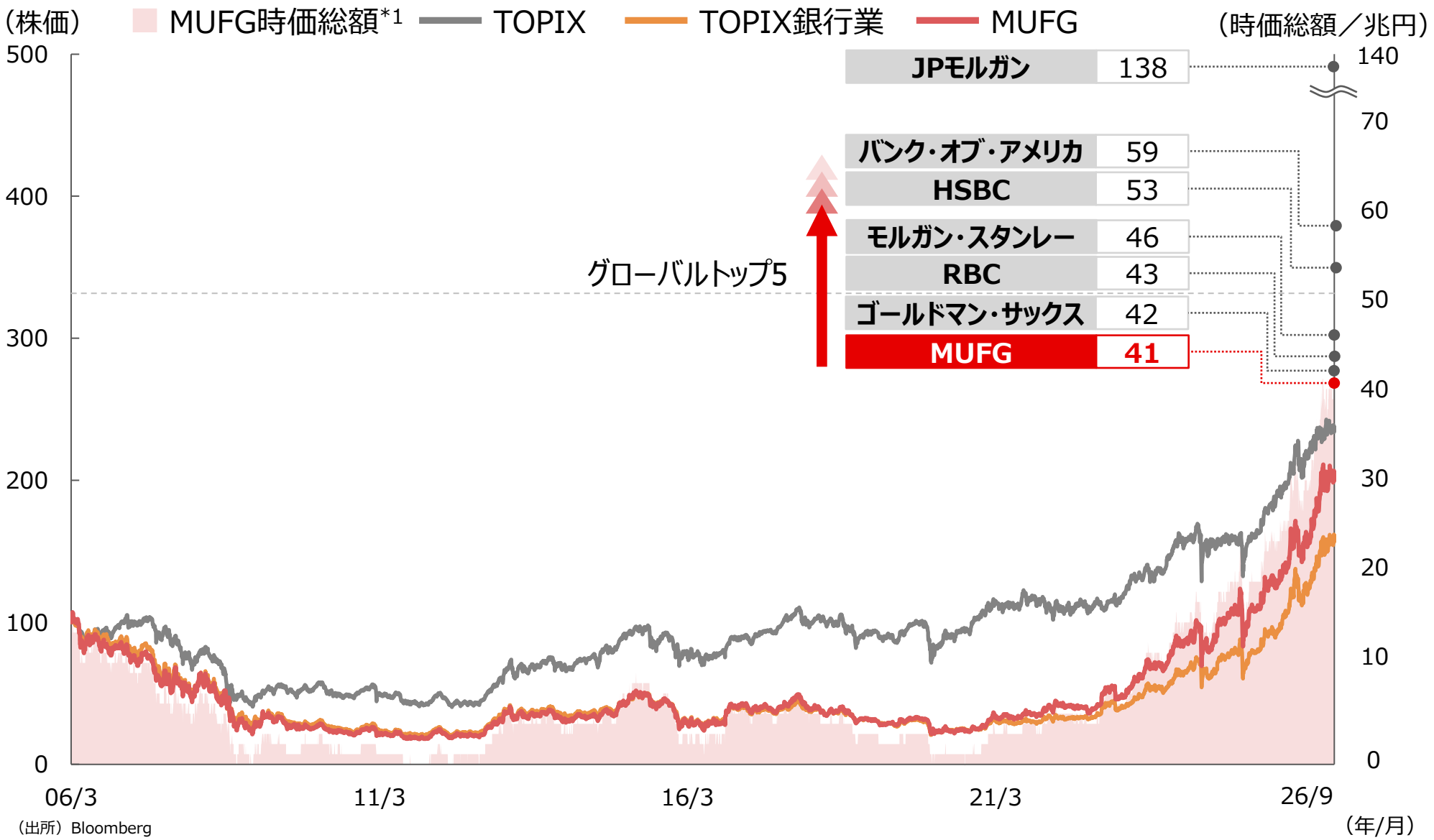
TSR（Total Shareholder Return）： 株主総利回り = 株価上昇率+配当利回り

（2021年3月末の株価終値＝100）



*1 2026年9月末時点（出所）Bloomberg

MUFGの“いま” –マイナス金利導入前からの株価推移

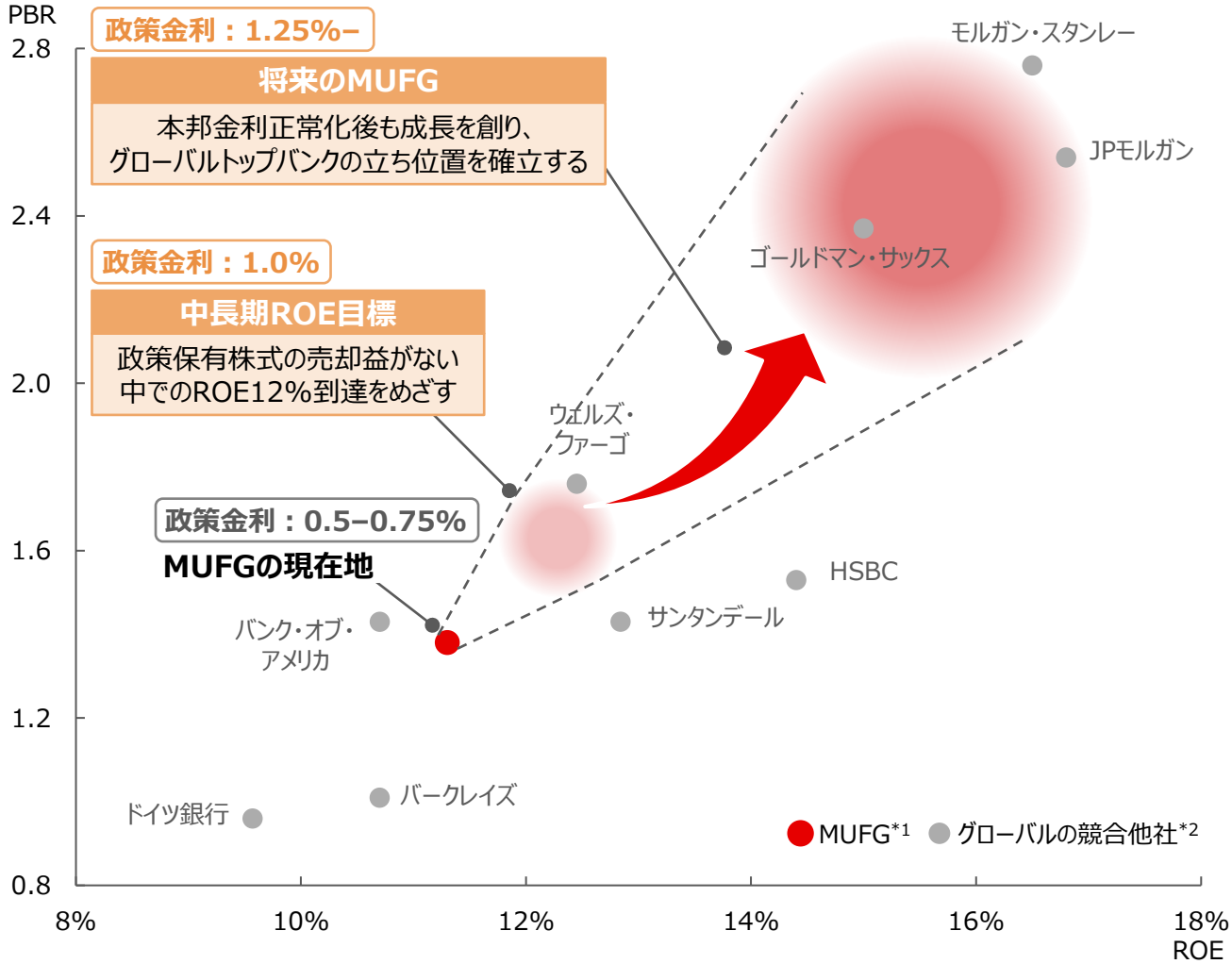


（出所）Bloomberg

*1 2026年9月末時点（MUFGのみ自己株式を除く）

MUFGの“いま” –グローバルトップバンクへ

–ROE12%を突破し、率と額両面でグローバルトップバンクに伍する株主価値をめざす

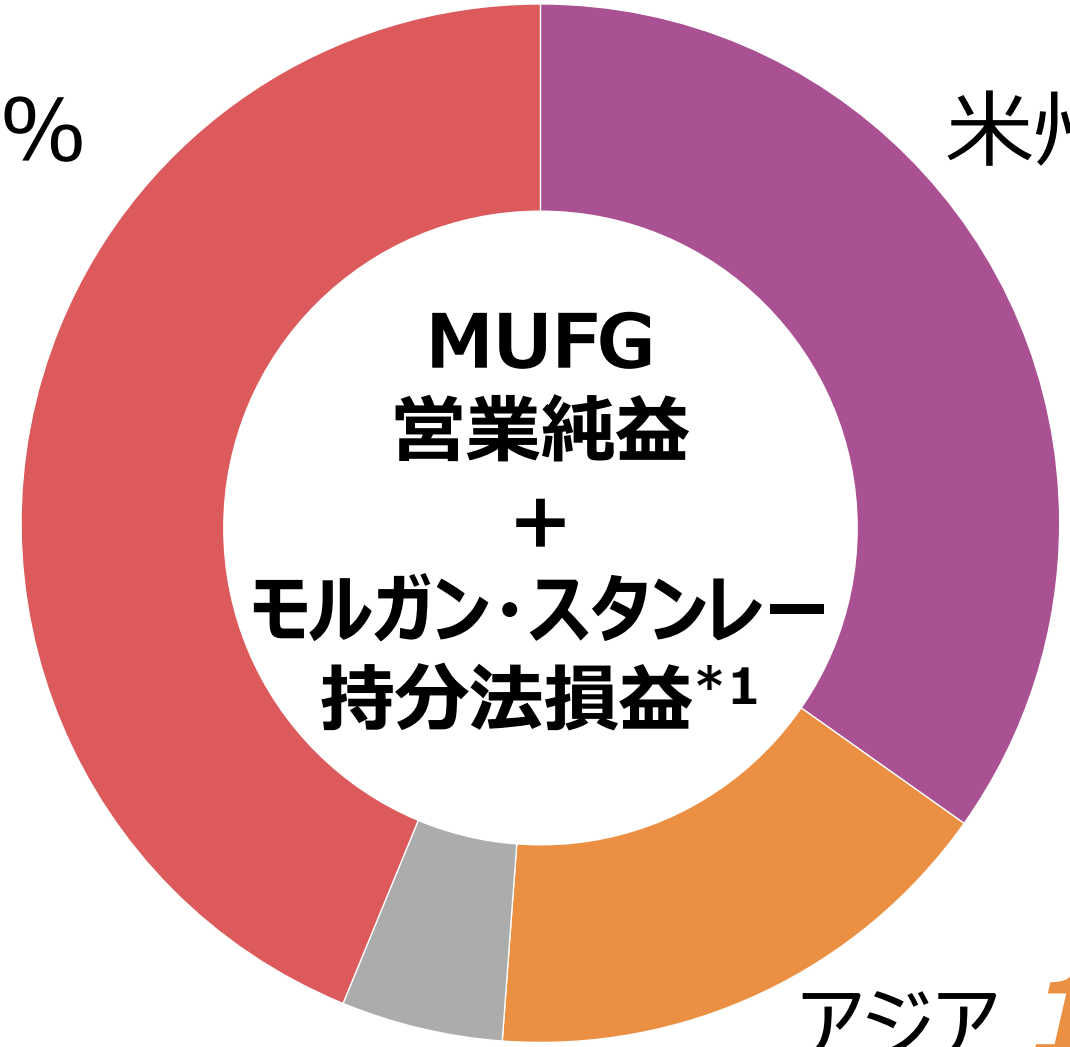


G-SIBs*3	時価総額*4（兆円）
1. JPモルガン	138
2. バンク・オブ・アメリカ	59
3. HSBC	53
4. モルガン・スタンレー	46
5. RBC	43
6. ゴールドマン・サックス	42
7. MUFG	41
8. ウェルズ・ファーゴ	38
9. シティ	34
10. サンタンデール	32
11. トロント・ドミニオン	30
12. SMFG	26
13. UBS	24
14. みずほFG	21
15. BNPパリバ	18

*1 ROEは東証定義　*2 2025年12月末時点（出典）Bloomberg　*3 中国国有銀行（中国工商銀行、中国農業銀行、中国建設銀行、中国銀行）を除く
*4 2026年9月末時点（MUFGのみ自己株式を除く）（出典）Bloomberg

Part2
MUFGのチカラ

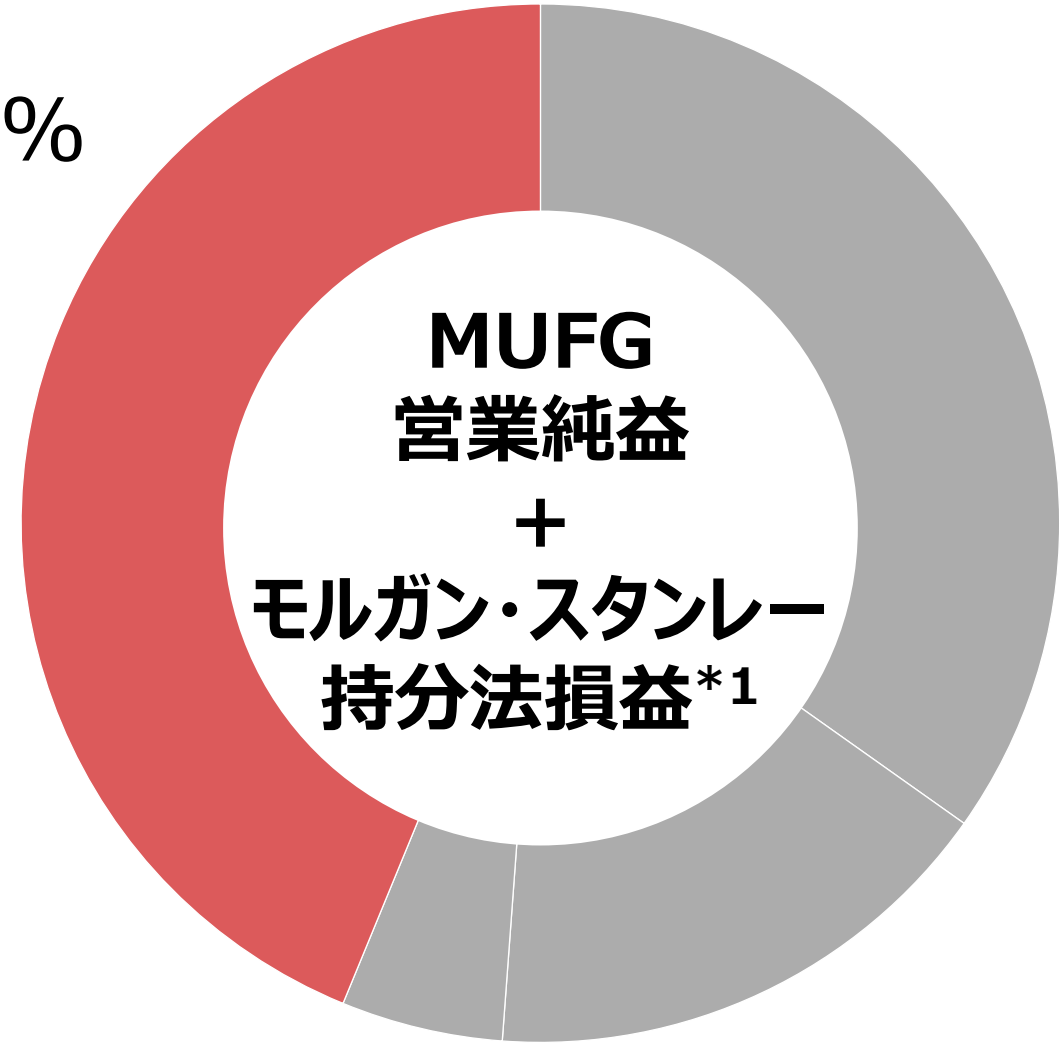
MUFGのチカラ –グローバルなポートフォリオで描く成長



*1　2025年度の管理計数

MUFGのチカラ –国内ビジネス

国内 *44*%



*1　2025年度の管理計数

国内の金融を取り巻く環境

日本全体

金利ある世界の定着

資産運用立国に向けた取り組みの加速

MUFG

期待される役割

あらゆる金融機能を揃えた
グループ総合力による
ステークホルダーへの貢献

グループ傘下に揃う金融機能で
あらゆるニーズに対応

個人

- 資産形成ニーズの拡大
- 異業種参入や技術革新による金融サービスの多様化

国内随一のBSで
旺盛な資金需要へ対応

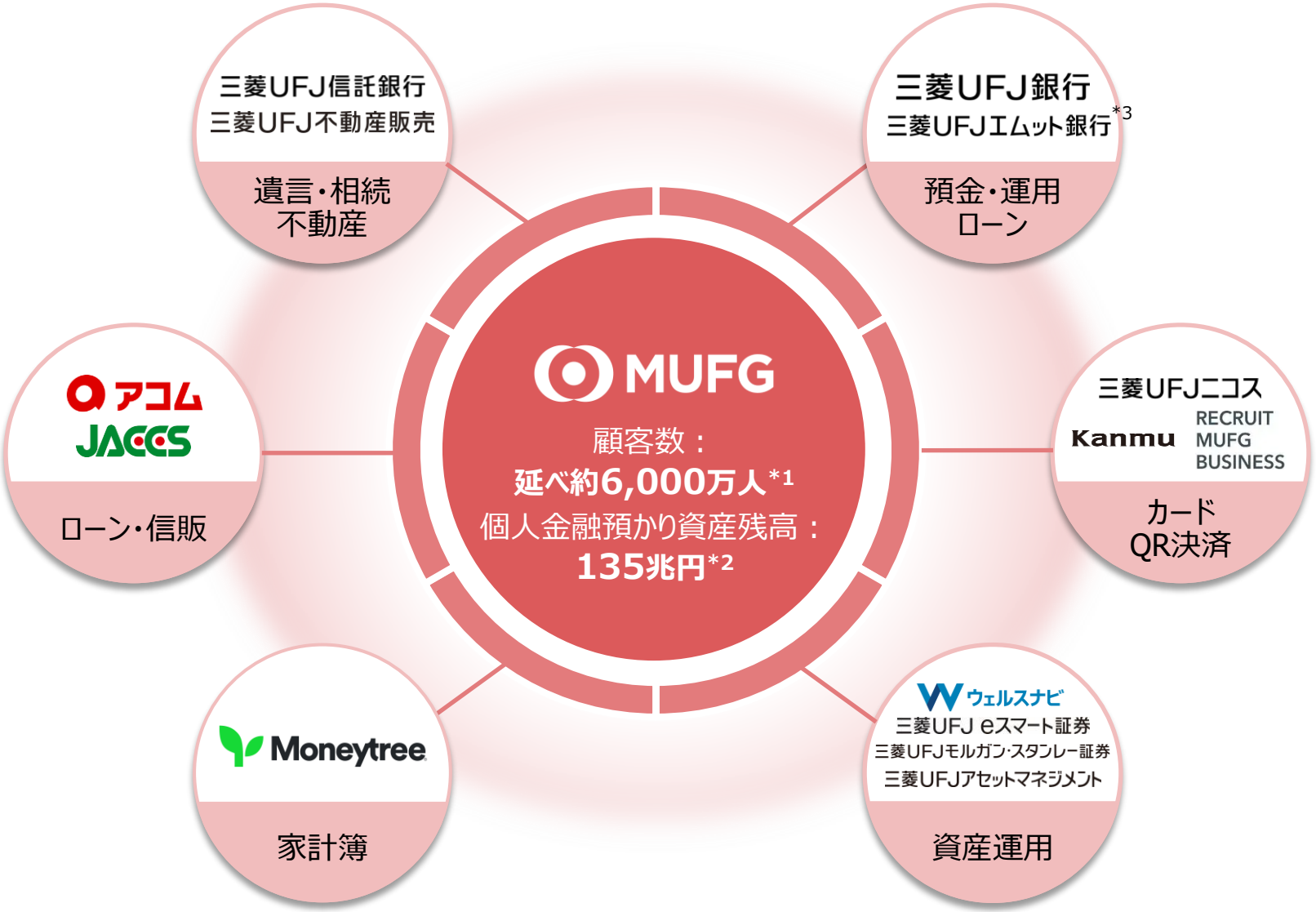
企業

- 成長に向けた投資拡大
- 企業再編の加速

MUFGのチカラ –国内ビジネス

「**生活**の中で**自然に**使われ**続ける**金融」へ

国内ビジネス ー圧倒的顧客基盤×グループに揃うコア金融機能



*1 RD事業本部に属するMUFG連結子会社の個人顧客数を単純合算 *2 2026年3月末時点 *3 2026年度後半開業予定

国内ビジネス －ライフステージ総合金融サービス「エムット」

リテール

Phase1　グループ各社のサービスとワンストップで繋がる

三菱UFJ銀行

三菱UFJニコス

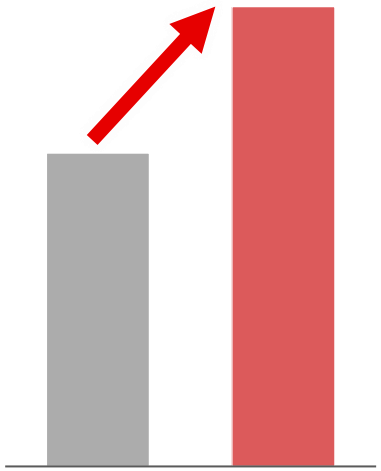


三菱UFJ eスマート証券

ウェルスナビ

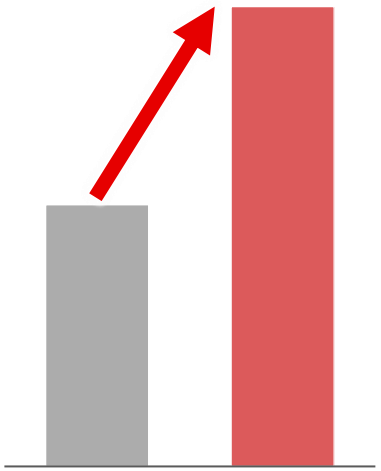
口座開設数*1

+47%



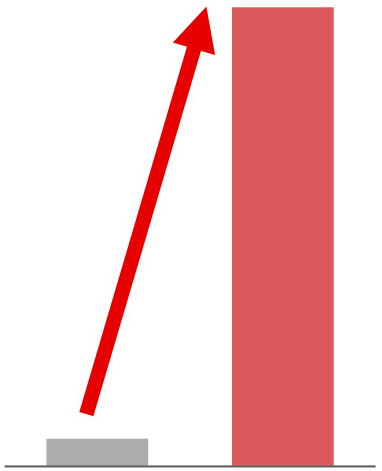
発券数*1

1.8倍



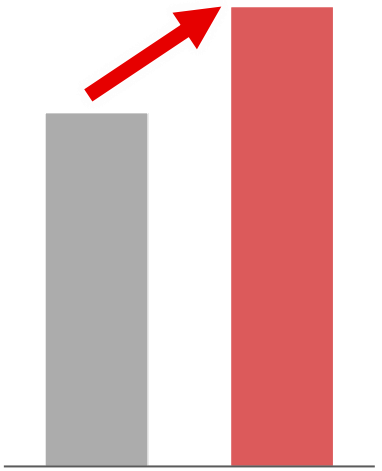
仲介口座開設数*1

16倍



預かり資産残高*2

+30%



*1　エムットリリース後9カ月間（6–2月）比較　*2　12月末預かり残高比較

国内ビジネス –新たなデジタル資産形成体験の提供

リテール

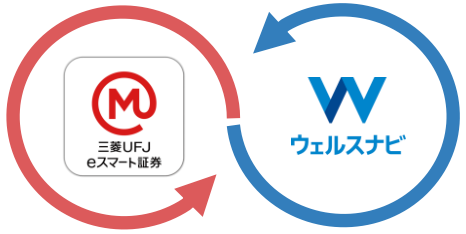
Phase2 新たなデジタル資産形成体験を提供

デジタルバンク「エムットバンク」（27年1-3月頃サービス開始予定）

三菱UFJ銀行		エムットバンク
圧倒的な支店網	相互補完	先進的なUI/UX
有人体制		AIによる一人別最適提案
ATMネットワーク		魅力的な金利・手数料

ネット証券統合（27年度統合予定）

- デジタル資産形成サービスを提供するエンティティ



トレーダー向け
- 豊富な商品・業務基盤
- 高度なトレーディングツール

お任せ運用ニーズ向け
- 内製化された開発体制
- 優れたUI/UX

口座開設
銀行・証券・NISAを**同時**申込

デジバンアプリ



はじめての取引
初心者でも**簡単**に運用

デジバンアプリ



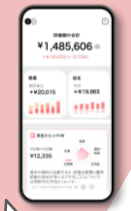
本格投資
デジバンアプリと**同じ**操作感・**シームレス**な連携

証券アプリ



日々の管理
AIが家計管理・取引自動化

デジバンアプリ



家計改善から資産運用まで総合アドバイス

AIとデータ活用により、一人ひとりに最適化

国内ビジネス –新しい顧客体験に向けた検討

リテール

Phase3 金融×AIによるサービス進化

OpenAIとの戦略的なコラボレーション

OpenAIのソリューションをMUFGに導入

- MUFG各社の**アプリにGPT最新モデル**を実装
- 各アプリが**シームレス**に連携、**一人別**の提案・回答実施



MUFGのサービスをOpenAIのエコシステムに連携

- **ChatGPT上で商品検索～購入まで**完結できる「Agentic Commerce」*1にMUFG決済サービスを実装

Instant Checkout *2



Googleとの戦略的提携

MUFG × Google

幅広い金融サービス	多様なサービス
豊富な金融データ	AI・クラウド先進技術
信頼・信用	安心のセキュリティ

Googleが日常生活の中で提供する
多様なサービスや体験と金融を組み合わせる

「生活の中で自然に使われ続ける金融」へ

*1 AIエージェントと企業がスムーズに取引を完了できるようするオープンスタンダード
*2 ChatGPT上で、商品の検索から購入まで完結できるサービス。対応している製品は「Buy（購入する）」をタップし、注文、配送、支払いの詳細を確認後そのまま購入可能

MUFGのチカラ –国内ビジネス

「企業のメインバンク」調査
14年連続**1位**[*1]
日本のあらゆる成長を全面支援する

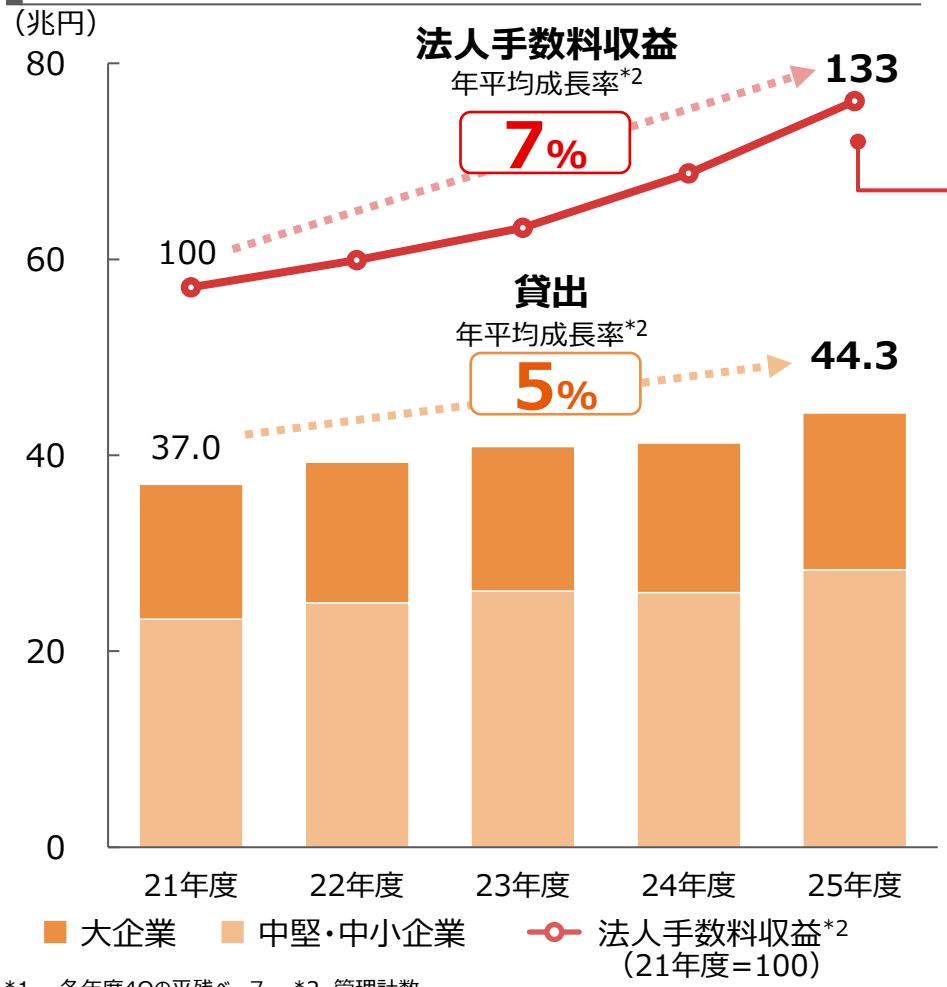
*1 （出典）東京商工リサーチ26年「企業のメインバンク」調査

国内ビジネス –法人基盤を生かしたグループ一体取引

法人

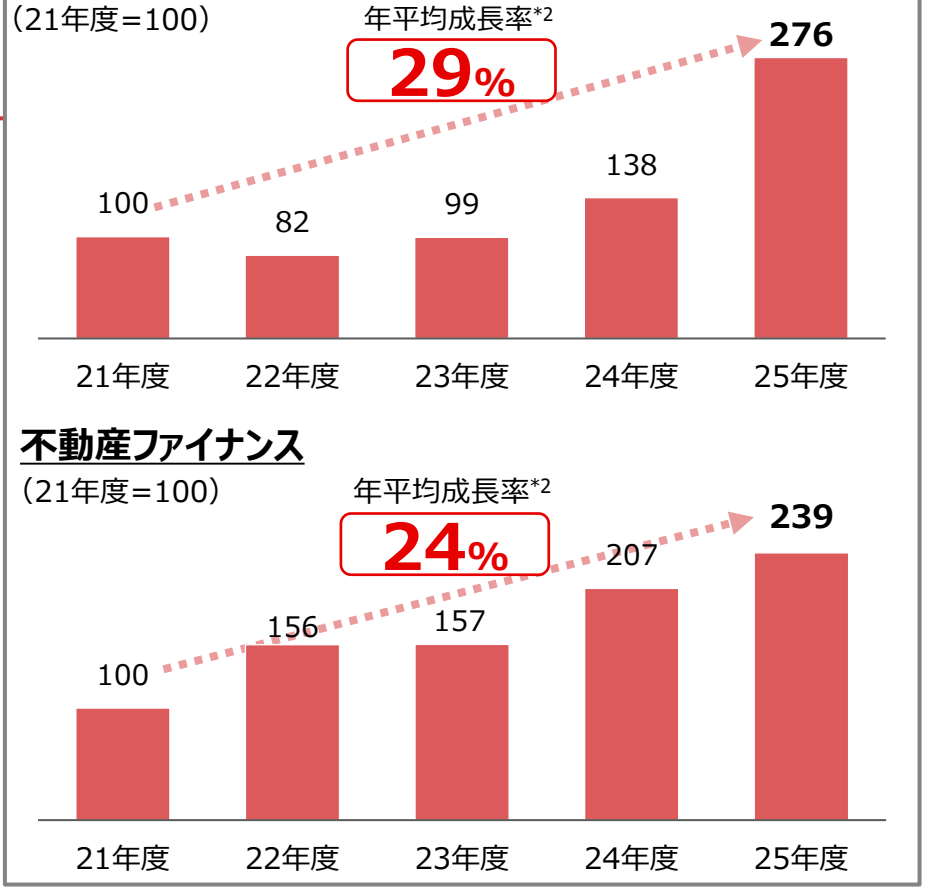
国内資金需要を捉えつつ、グループ総合力を活かしたソリューション提供による収益も着実に拡大

法人貸出残高*1と手数料収益

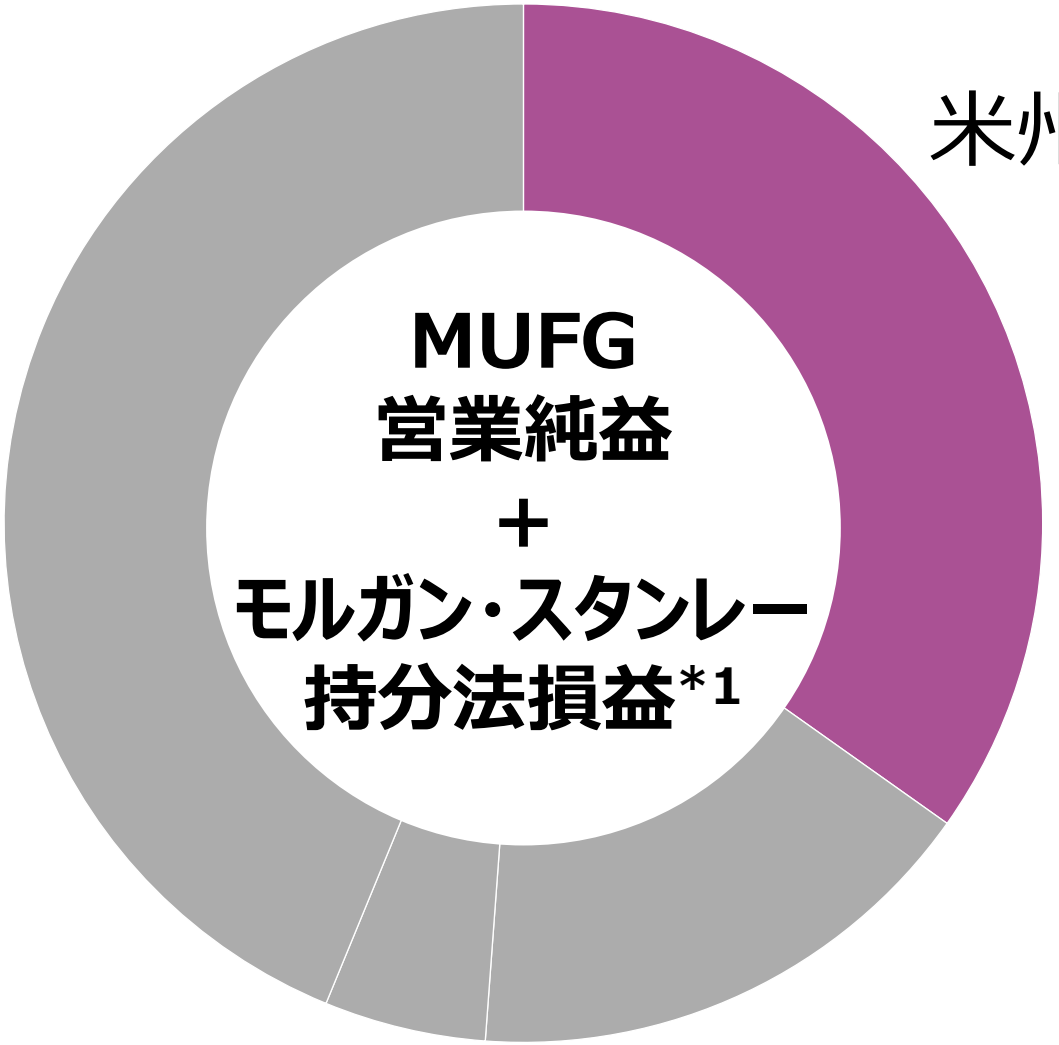


*1　各年度4Qの平残ベース　*2　管理計数

特にM&Aや不動産ファイナンス領域で案件積み上げ



MUFGのチカラ –米州ビジネス



米州 35%

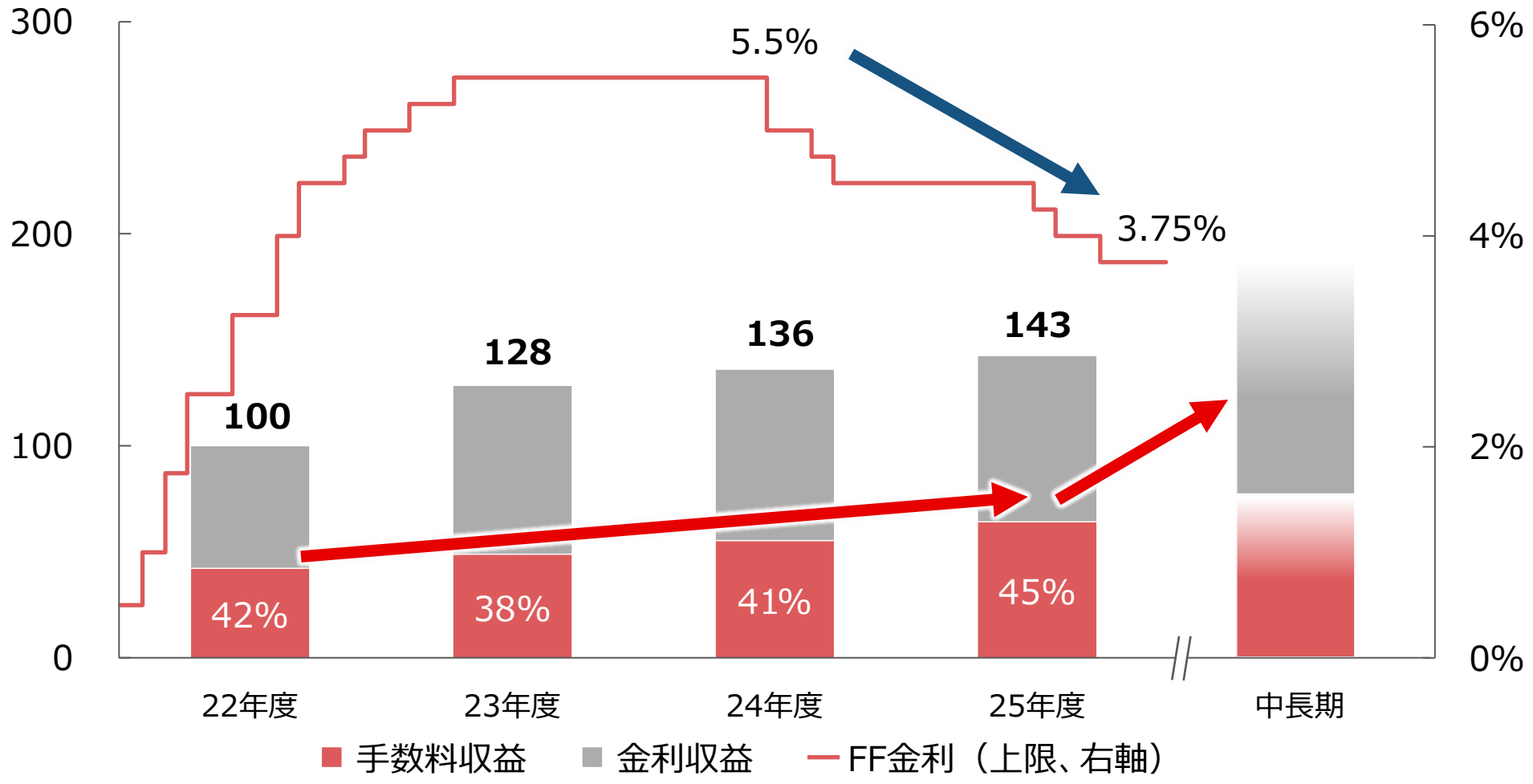
*1　2025年度の管理計数

MUFGのチカラ –米州ビジネス

金利変動に強い**収益力**

米州ビジネス –手数料収益による持続的な成長

米州粗利[*1]
（22年度=100、左軸）

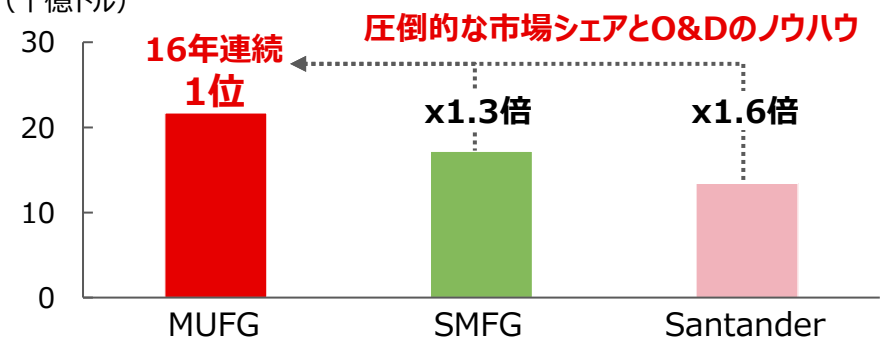


*1 米ドル建ての管理計数を相対化。22年度はMUFGユニオンバンク売却勘案後の暫定計数

米州ビジネス –MUFGが誇る米州O&Dにおける2つの強み

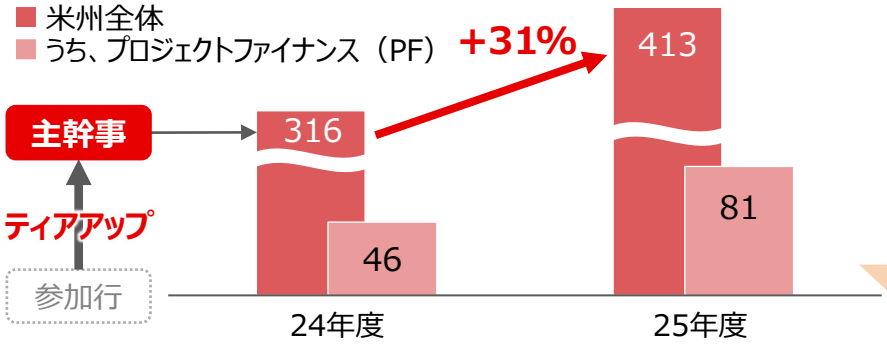
実需を着実に捉えるプロダクト組成力

プロジェクトファイナンス（PF）マンデートアレンジャー*1



主幹事案件数*2

- 主幹事案件の獲得に拘り、より効率の良い手数料収益の獲得へ

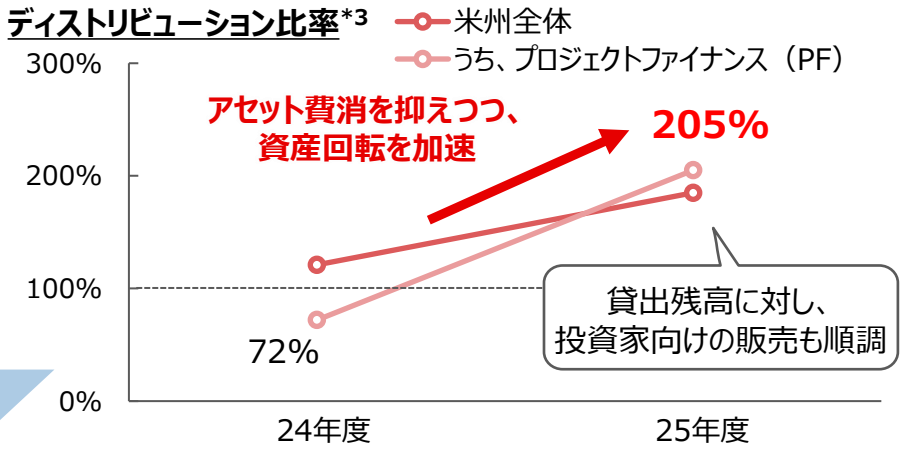


広範なネットワークを駆使したディストリビューション力

データセンター ファイナンス案件の 招聘投資家数	米引受案件における 所要ディストリビューション 日数
約2倍 （23年度比）	約25%減 （24年度比）

投資需要の加速＋MUFGの広範なネットワーク

ディストリビューション比率*3



中長期目標

手数料収益：約2.0倍、組成・販売額：約1.5倍

*1 25年度（出典）LSEG　*2 Active Bookrunner件数
*3 25年4月から貸出残高に対し、販売可能なアセットのうち、どの程度実際に販売したかを計る社内管理上の指標

米州ビジネス –モルガン・スタンレーとの戦略的提携

MUFG×モルガン・スタンレーの幅広い協働領域

グローバル投資銀行業務

米 AIインフラ関連融資

USD 8.5Bn

26/3月

CoreWeave

亜 台湾転換社債協働

総額約USD 4Bn

Joint Marketingを通じ新たな協働

プロダクツ組成力 MS ／ 顧客基盤 MUFG

WM・職域

三菱UFJ eスマート証券へ
スマートオーダールーティング（SOR）システム提供

個人投資家 ← プロに近いトレード環境提供 ← 三菱UFJ eスマート証券 / モルガン・スタンレー MS SOR（世界最高峰）

資産運用

国内公募投信**2本**[*1]設定（25年度）

MUFG ⇄ モルガン・スタンレー

海外向け日本株ファンド
AuM（運用資産残高）
前年比2倍

市場

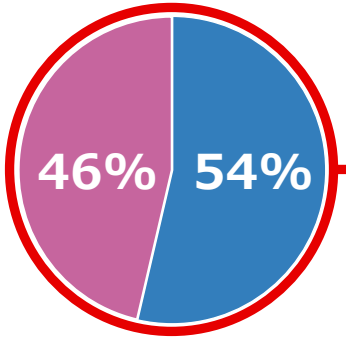
外国為替トレーディング
機関投資家・事業法人向け
2年連続増

知見共有

AI・サイバーセキュリティ等
米国最先端の知見共有

利益の取り込みを実現する事業ポートフォリオ[*2]

法人・投資家向け証券業務



資産運用業務 & ウェルスマネジメント業務

出資比率 約**24**%

モルガン・スタンレーを通じた安定した米州経済の取り込み

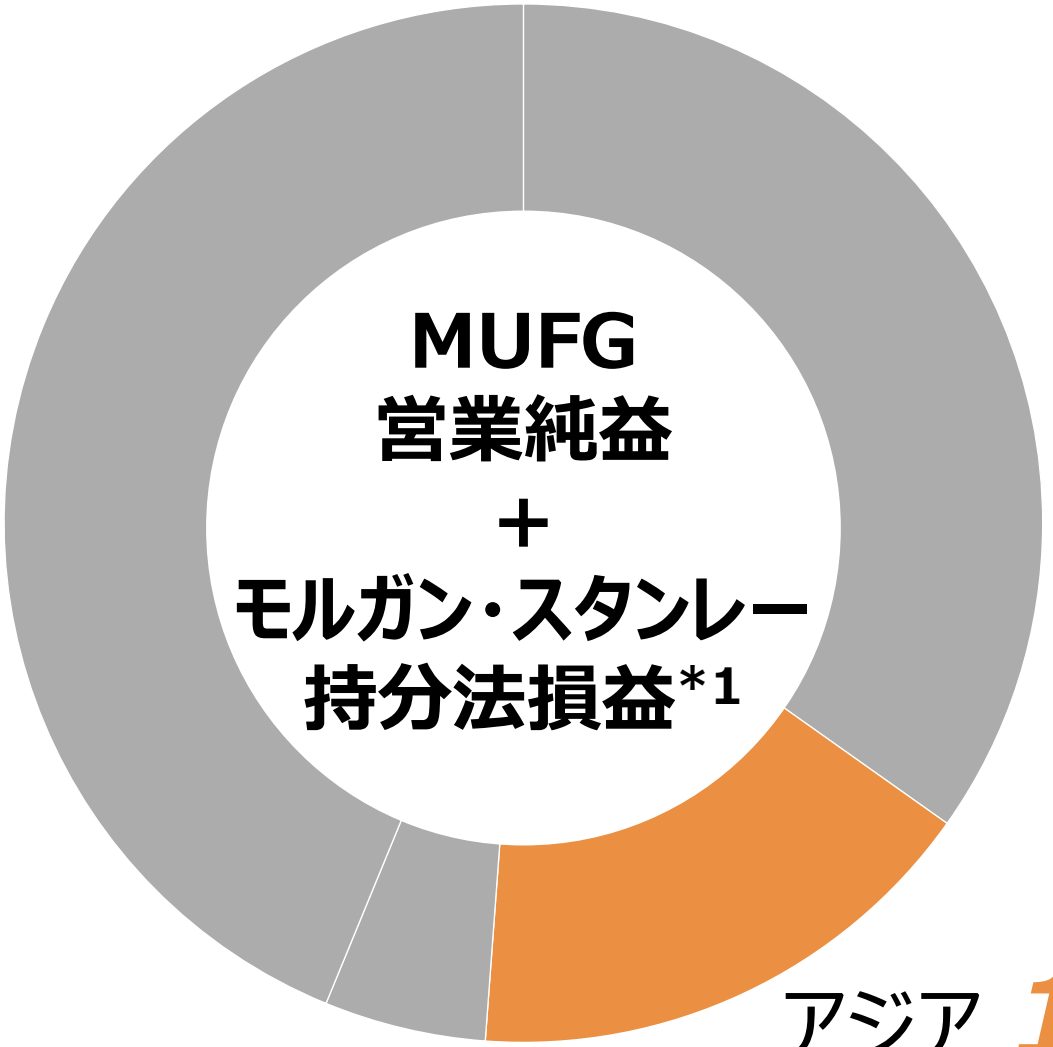
出資採算（25年度）

16%[*3]

持分法投資損益：約6,700億円

*1 モルガン・スタンレー米国株式インサイト戦略ファンド・新興国債券オポチュニティ・ファンド　*2 2025年純営業収益
*3 持分法投資損益÷連結簿価（MSの純資産に対する当社の持分相当及びのれん、優先株を含む。26年3月時点で4.3兆円）

MUFGのチカラ –アジアビジネス



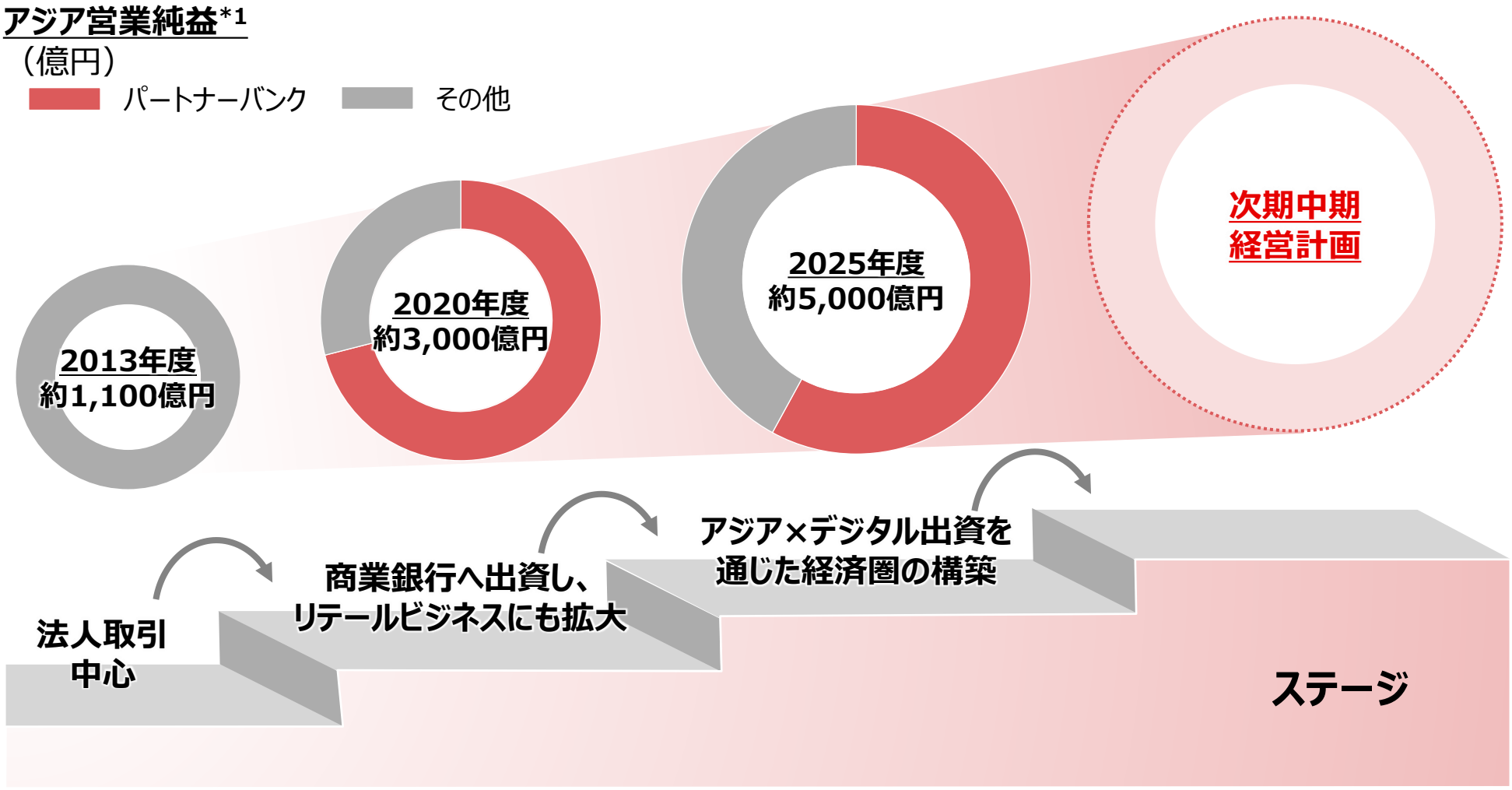
*1　2025年度の管理計数

MUFGのチカラ –アジアビジネス

+約*4,000*億円

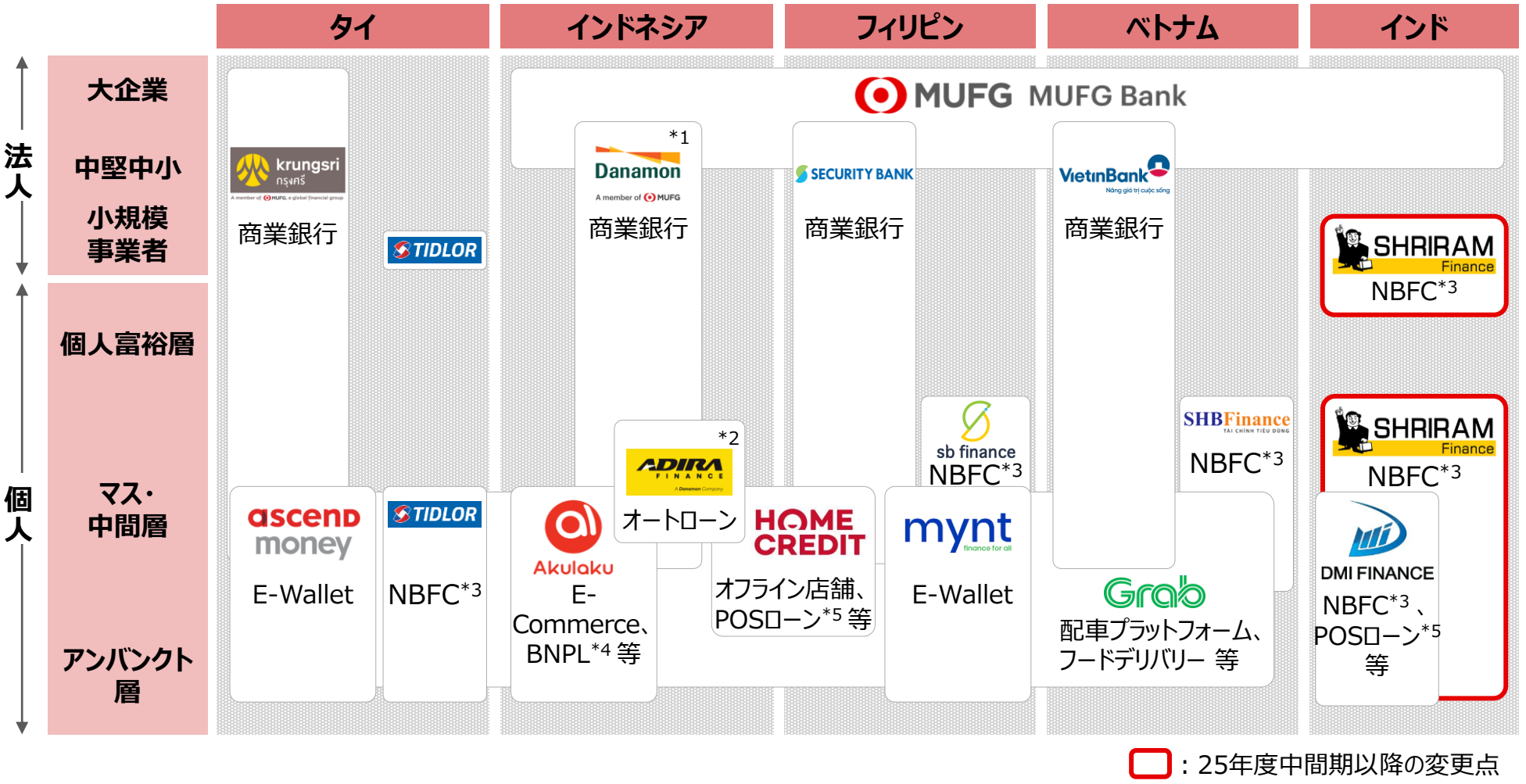
アジアビジネス –ステージ変化に伴う営業純益の拡大

MUFGのアジア戦略は事業ポートフォリオの多様化により、形を変えながら成長してきた



*1　管理計数。2013年度と2020年度、2025年度はそれぞれ異なるレートを使用。2020年度と2025年度は為替変動による増加影響含

アジアビジネス –MUFGのユニークなネットワーク

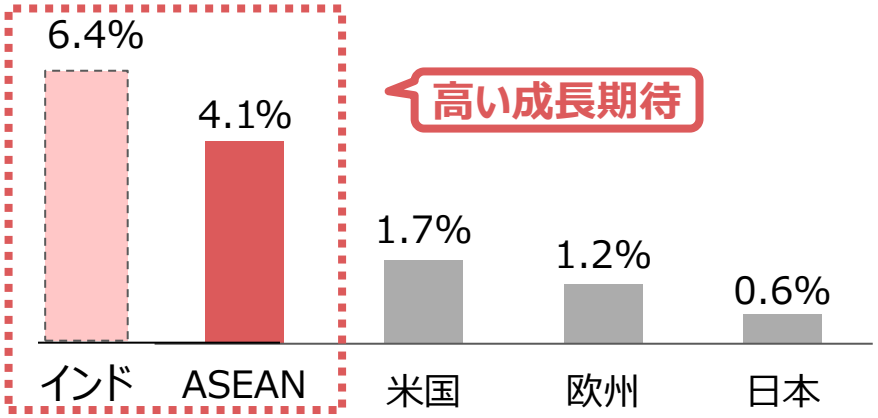


*1 三菱UFJ銀行ジャカルタ支店との統合を発表（詳細は2026年5月11日付プレスリリースご参照）
*2 2025年10月1日付でPT Mandala Multifinance Tbkと合併 *3 Non-Banking Financial Company
*4 Buy Now Pay Later。商品の購入代金を後日支払う決済方法
*5 Point of Saleローン。耐久財の販売店などでの商品購入時に提供する割賦ローン

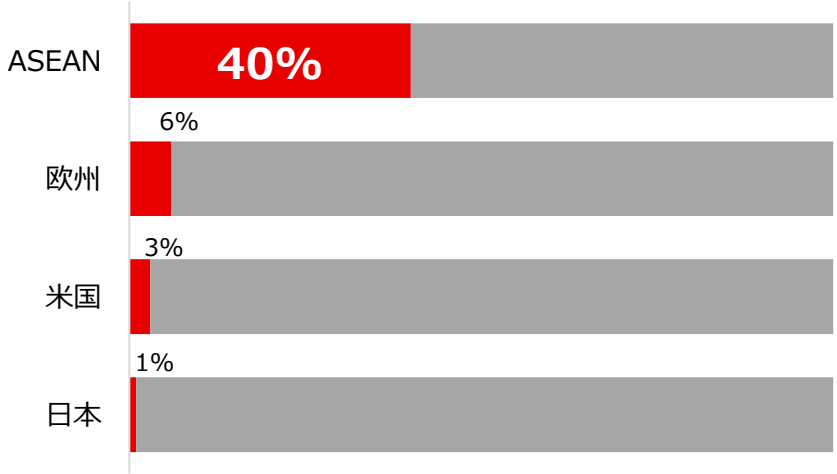
アジアビジネス –MUFGのユニークなネットワーク

なぜアジア？

2026年GDP成長率予測*1



アンバンクト層*2 – 銀行口座を持たない顧客層



アジア×デジタル

タイ・フィリピンでそれぞれシェア1位のデジタルウォレットサービス

ascend money

E-wallet ユーザー数*3
約2,000万人 人口の約30%

Mynt FINANCE FOR ALL

E-wallet ユーザー数*3
約4,000万人 人口の約35%

銀行口座が不要なQR決済、請求書払い等でアンバンクト層を捉える

アジア×ローン

HOME CREDIT

POSローン(店頭分割払)
→小売店と提携し家電等の販売時に提供

SHRIRAM Finance

オートローン(自動車ローン)
→中古商用車・乗用車ローンを主軸に提供

アジアの積極的で多様なファイナンス需要を捉える

*1 2026年7月時点 （出典）IMF *2 2024年時点 （出典）Global Findex, Global Finance *3 2026年時点

アジアビジネス –MUFGのインド戦略

インドトップクラスのノンバンク「**Shriram Finance社**」へ出資完了

SHRIRAM Finance

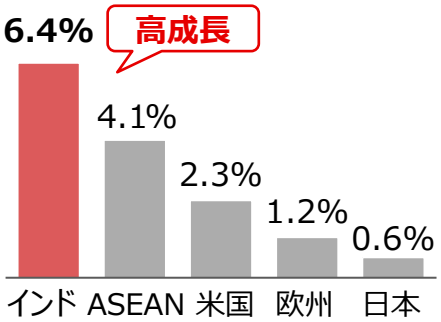
顧客基盤
約**9.7**百万*1

拠点数
3,225*1

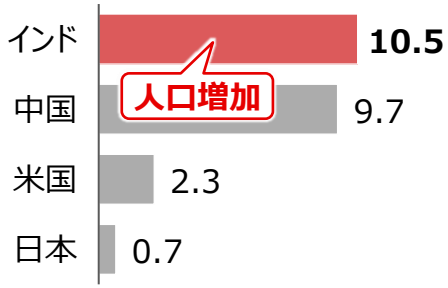
インドリテールノンバンク
第2位（貸出規模・当期純利益・時価総額）

インド市場の成長性

GDP成長率予測*2

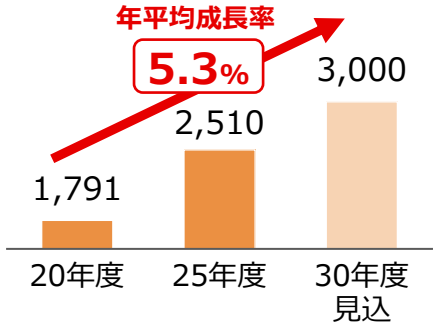


2030年 生産年齢人口予想*3
（15歳以上65歳未満、億人）

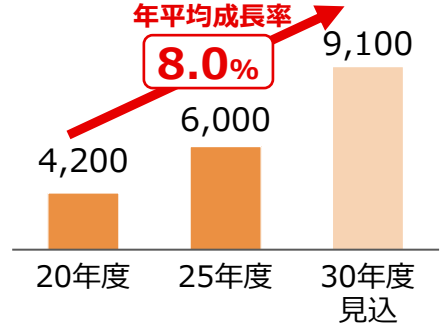


中古商用車・乗用車販売台数予測*4

中古商用車販売台数（千台）

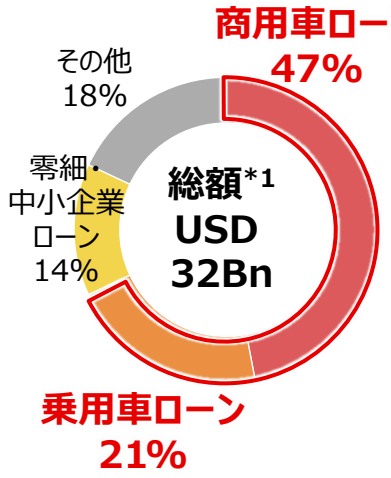


中古乗用車販売台数（千台）

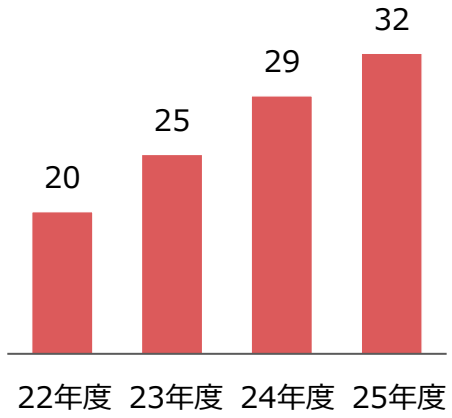


Shriram Finance社の強み

貸出残高の商品別内訳*5



持続的な貸出残高拡大
（USD Bn）



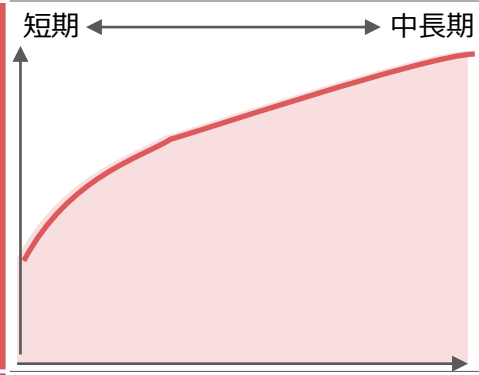
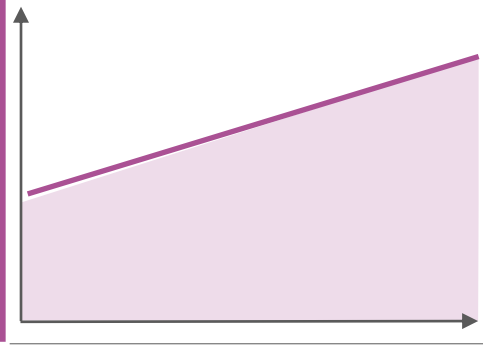
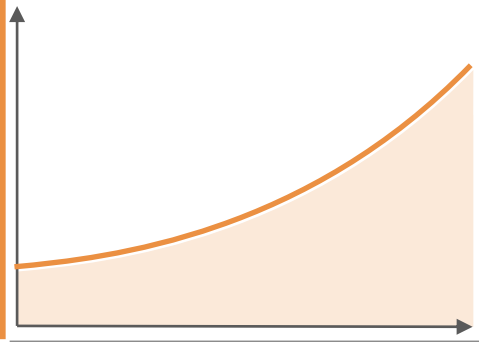
期待するシナジー効果

1. 増資による**信用力向上**やMUFGが持つ**資金調達手段提供**
2. 新車ファイナンス領域事業への**拡大**やMUFG顧客との**協働**
3. MUFG・Shriram Finance相互の**経営知見の共有**

*1 2026年3月末基準 *2 2026年7月時点（出典)IMF *3 IMF – World Economic Outlook Databases、Economist Intelligence Unit (EIU)、第三者調査機関による調査結果をもとに当社作成
*4 JETROレポート、第三者調査機関による調査結果をもとに当社作成
*5 2026年3末基準 貸出残高はOn-bookベース、割合はOn-bookおよびOff-bookの合計ベース

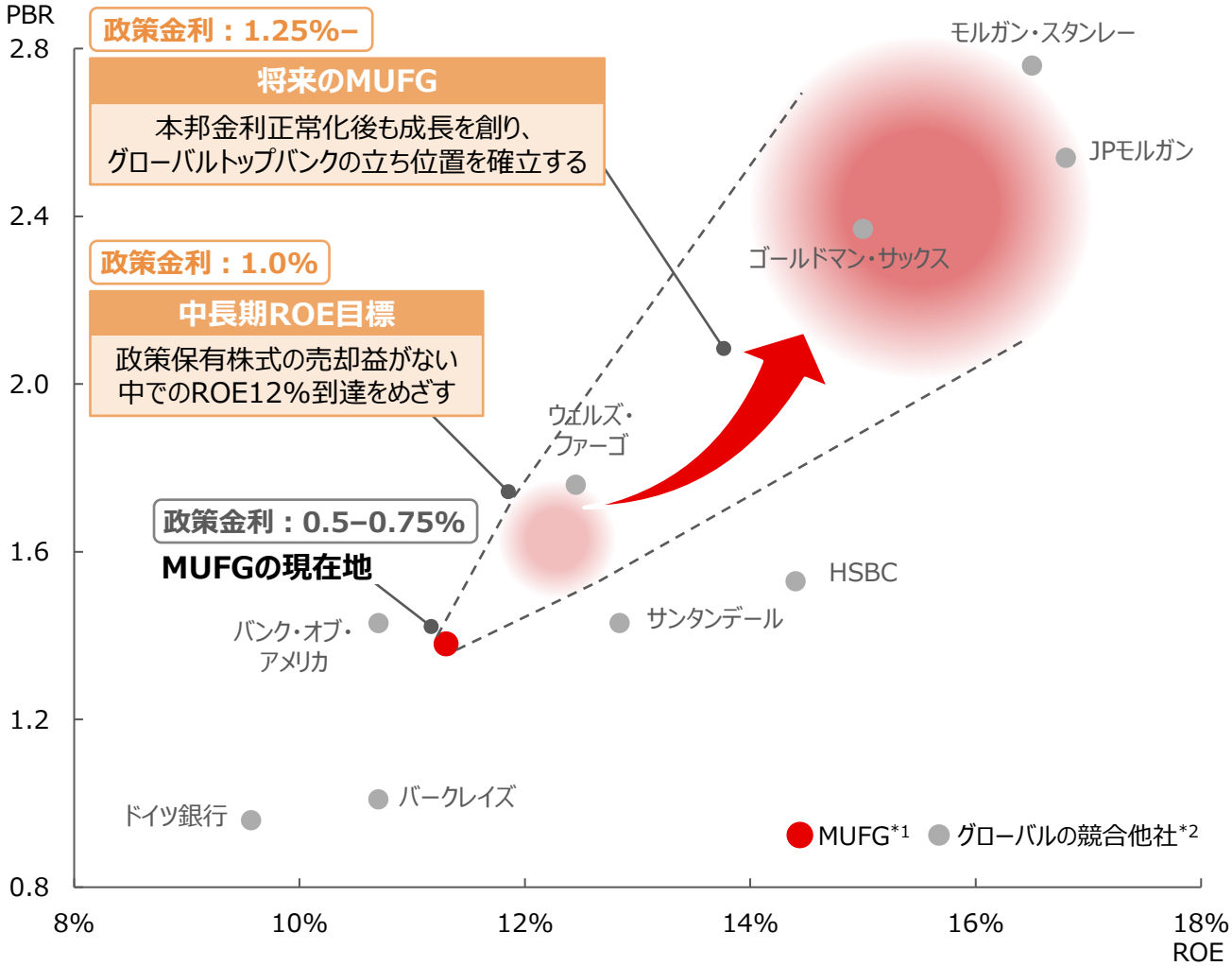
MUFGのチカラ –それぞれのポートフォリオが描く成長曲線

▼ 利益成長のイメージ

国内		• **短期：** 政策金利の上昇に伴い国内最大の顧客基盤が収益に大きく貢献 • **中長期：** **事業共創と資産運用機能の強化**を通じ、 社会やお客さまの成長を創り、直接・間接金融両面で支援
米州		• **短期ー中長期：** **投資銀行やプロジェクトファイナンス、O&D**等の強みを有する領域や **モルガン・スタンレーとの提携**が、底堅い成長を実現
アジア		• **短期・中期：** 各国の成長に応じてリソースを適切に配分し、出資先との協働や MUFGの経済圏の確立に注力 • **中長期：** **MUFGの経済圏**がユニークなシナジーを生み出し成長に大きく貢献

MUFGの“いま” –グローバルトップバンクへ

–ROE12%を突破し、率と額両面でグローバルトップバンクに伍する株主価値をめざす



G-SIBs*3	時価総額*4（兆円）
1. JPモルガン	138
2. バンク・オブ・アメリカ	59
3. HSBC	53
4. モルガン・スタンレー	46
5. RBC	43
6. ゴールドマン・サックス	42
7. MUFG	41
8. ウェルズ・ファーゴ	38
9. シティ	34
10. サンタンデール	32
11. トロント・ドミニオン	30
12. SMFG	26
13. UBS	24
14. みずほFG	21
15. BNPパリバ	18

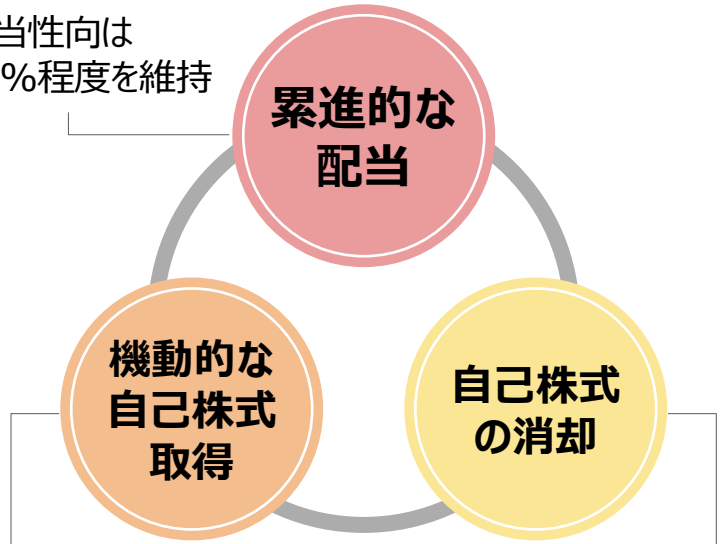
*1 ROEは東証定義　*2 2025年12月末時点（出典）Bloomberg　*3 中国国有銀行（中国工商銀行、中国農業銀行、中国建設銀行、中国銀行）を除く
*4 2026年9月末時点（MUFGのみ自己株式を除く）（出典）Bloomberg

Part3
Q＆Aセッション

株主還元方針と還元推移

株主還元の基本方針

配当性向は
40%程度を維持

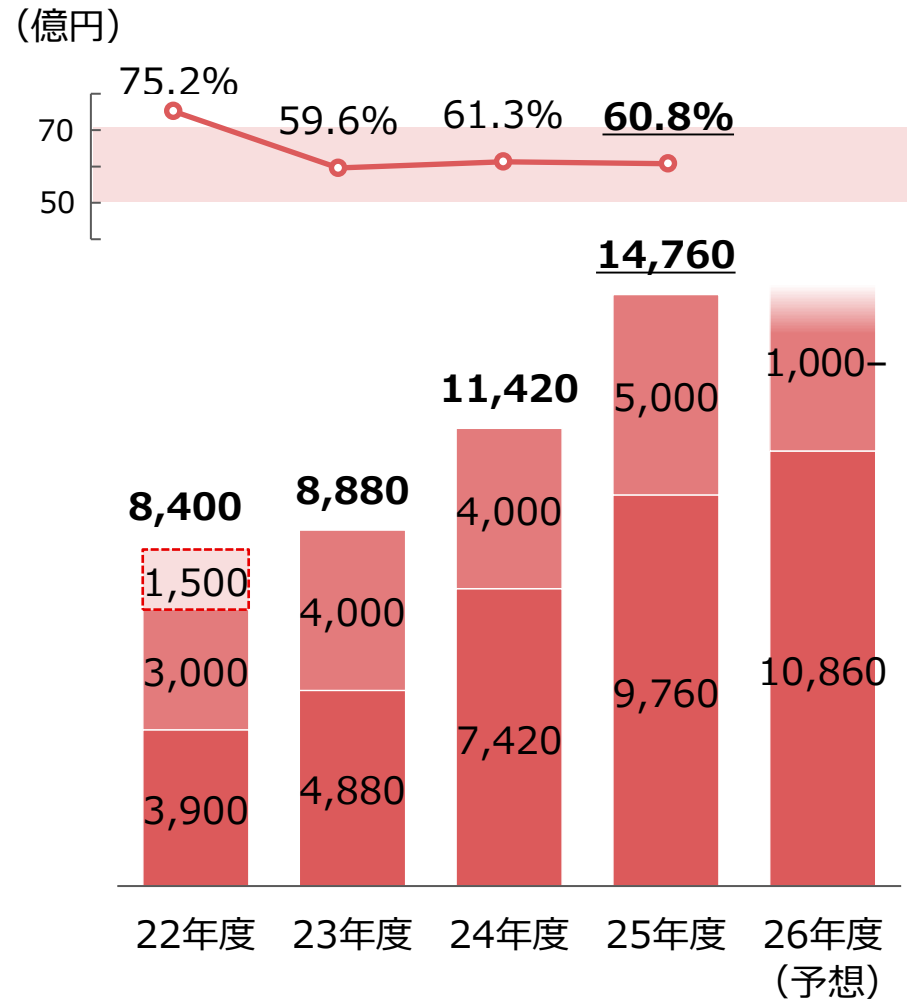


以下を勘案して実施
- 業績・資本の状況
- 成長投資の機会
- 株価を含めた市場環境

発行済み株式総数の
5%程度を上限

**規律のある資本運営のもと、
株主還元の一層の充実を図る**

総還元額と総還元率の推移



MUFG

株主イベント

開催イベントの例*1

MUFGスタジアム見学ツアー



国立競技場の
ナショナルスタジアム
パートナーとして、
国立競技場の価値向上、
社会課題の解決に取り組み

MUFG社会課題解決×堺SAF工場見学ツアー



社員食堂の廃食用油を
供給している
国内初の国産SAF
（持続可能な航空燃料）
製造所

東洋文庫ミュージアムの貸切見学



三菱第三代社長
岩崎久彌が
1924年に設立した
東洋学の研究図書館

三菱一号館美術館の貸切観覧



三菱が1894年に建設した
「三菱一号館」
（ジョサイア・コンドル設計）
を可能な限り
忠実に復元

MUFGへの理解を一層深めていただけるような機会の提供

*1 2026年実施済分、抽選制

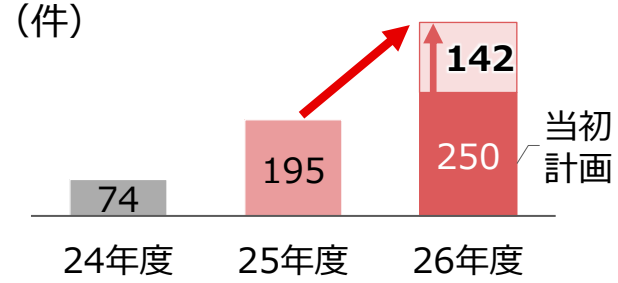
MUFG

AI活用

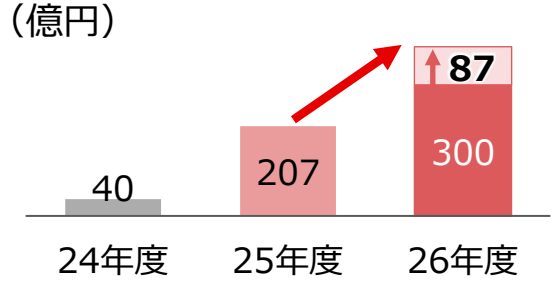
– AIネイティブな企業への変革は計画を超えて進捗。アジャイル変革で加速

AI戦略の進捗

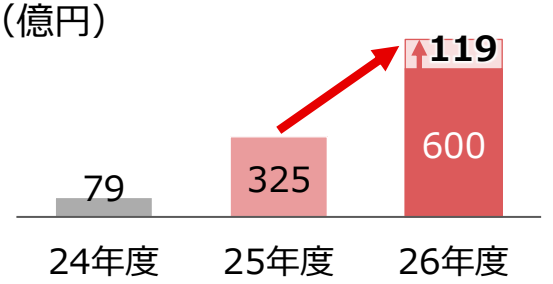
AI業務実装件数（累計） *1



期待効果（累計） *2



今中計の累計投資額

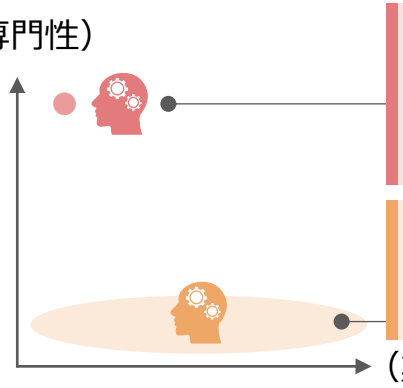


主なAI業務実装例

事業モデルの変革	• コールセンター（対法人・個人）
社員の働き方改革	• 生成AI拡充（ChatGPT Enterprise、Copilot） • AI社内手続ナビゲーター • AIメールモニタリング • システム開発効率化
データドリブン営業	• 提案書生成 • 音声記録化

AIエージェント導入に向けた取組

- 特化型・汎用型双方を活用、各業務に最適なAIエージェントを開発
- AI基盤の構築・暗黙知*3のアセット化→業務プロセス変革へ



【例1】AI融資エキスパート／特化型
（Sakana AIと協働）
- 行内の暗黙知をAIへ
- 融資関連の営業活動をサポート

【例2】Jinba*4／汎用型
- 組織横断で定例業務効率化のワークフローをAIが作成

*1 生成AI、機械学習、SaaS等を含めた数字
*2 今中計開始時を基準に、一定の前提およびロジックに基づき試算した財務効果（みなし効果を含む）。成長要因等は考慮せず、今後の環境変化や目標見直し等により変動の可能性あり
*3 各種規定やマニュアル等形式知には含まれない情報　*4 チャットボットに自然言語で指示することでAIがワークフローを構築。行内システムとも接続予定

MUFG

円金利上昇影響による期待

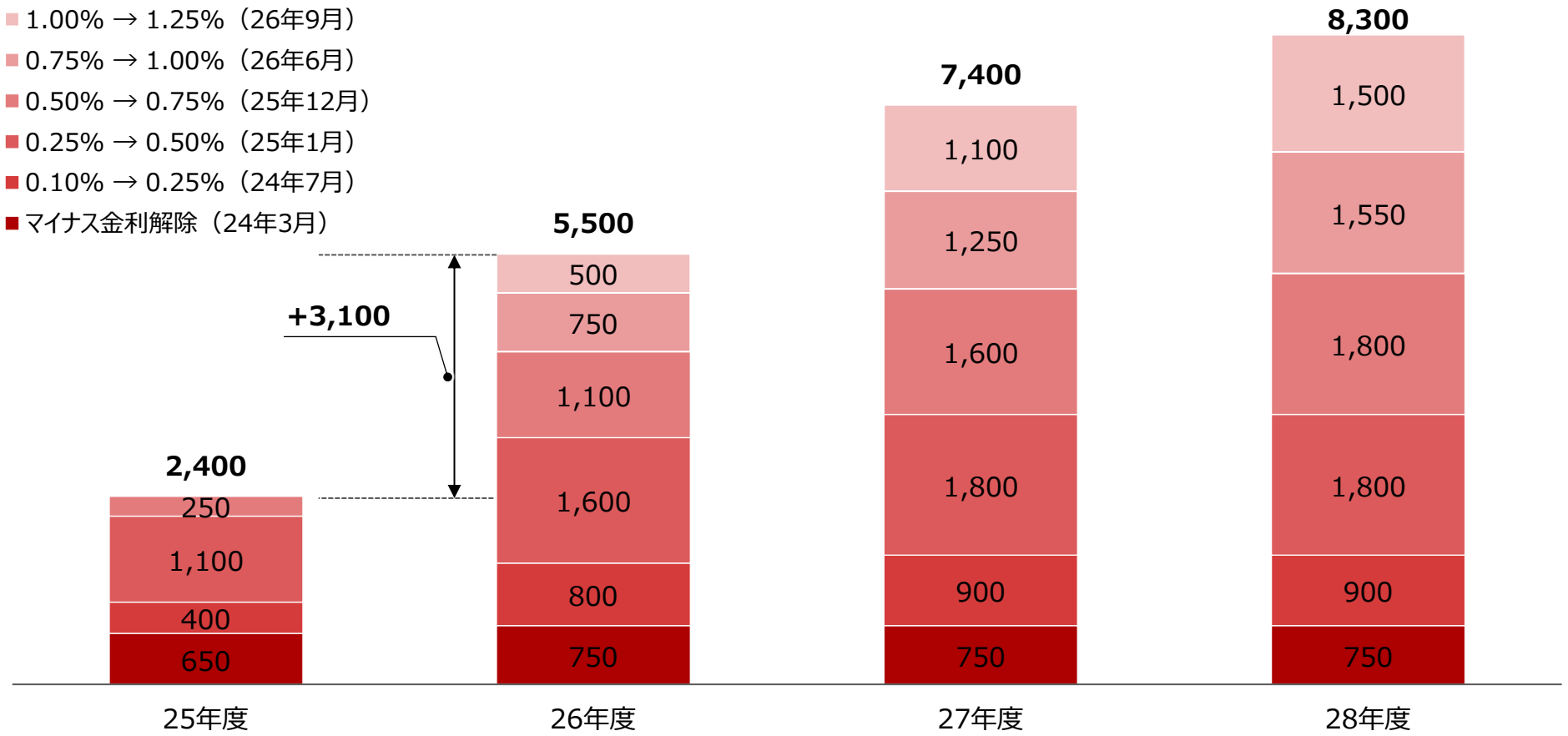
金利上昇による収益感応度

0.25%あたり1,800億円*1 ＋ **B/S構造の変化による更なるアップサイド**

これまでの利上げによる収益影響*2

2行合算

（億円）



*1 金利即時上昇後、3年目の影響額（1年目 1,000億円、2年目 1,500億円）　*2 試算前提：バランスシート構造は各利上げのタイミングから不変。市場金利の上昇幅は利上げ幅と同じ

MUFG

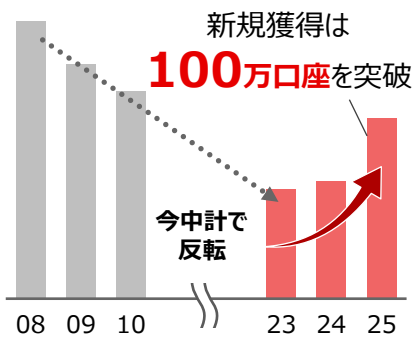
エムットの足元の成果とめざす姿

– エムットを進化させ、生活に溶け込む存在として金融機能を必要とする際に必ず想起される存在へ

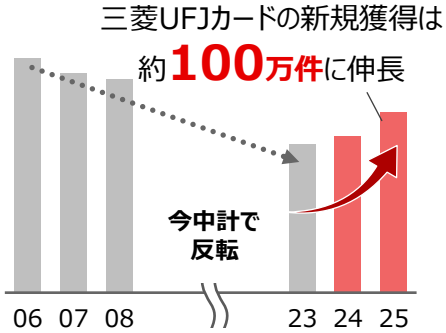
足元の成果・現在地

- 新規口座・カード会員数の拡大に加え、Gr各社への送客も増加。エムットの認知率も着実に向上し、更なる基盤・クロスセル拡大の土台を構築

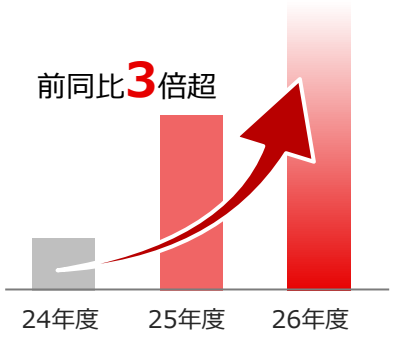
新規口座開設数[*1]



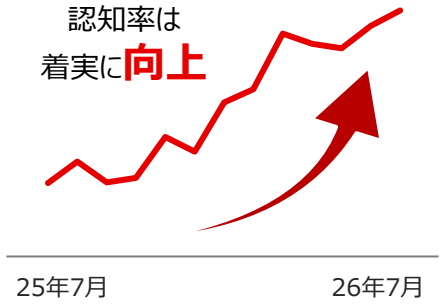
プロパーカード有効会員数



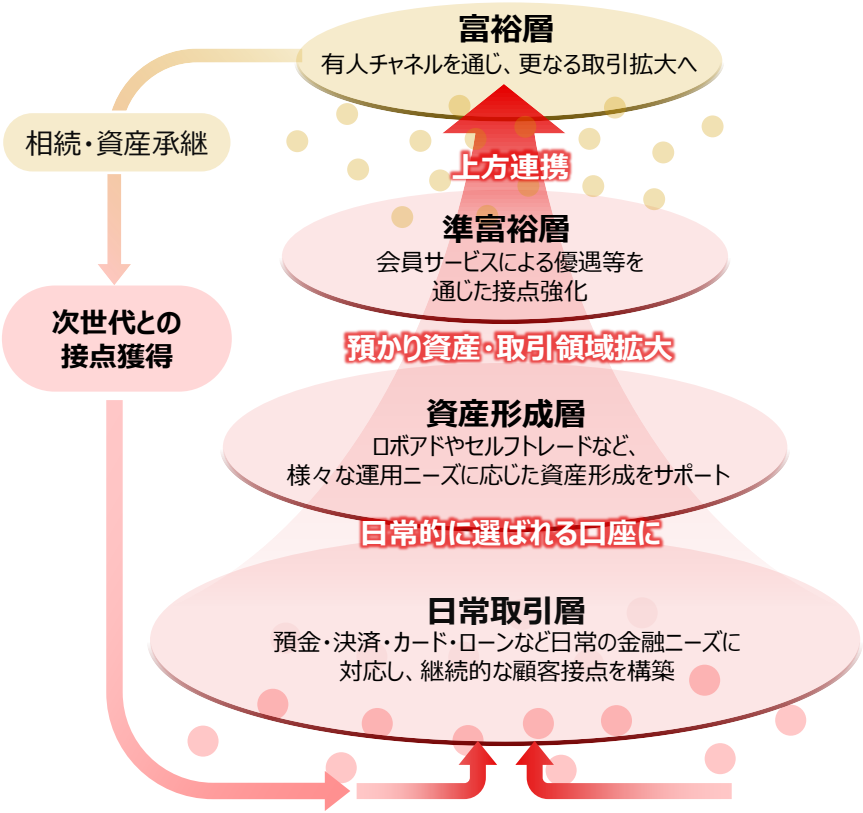
銀行からGr各社への連携数



エムット認知率[*2]



リテール戦略の全体像



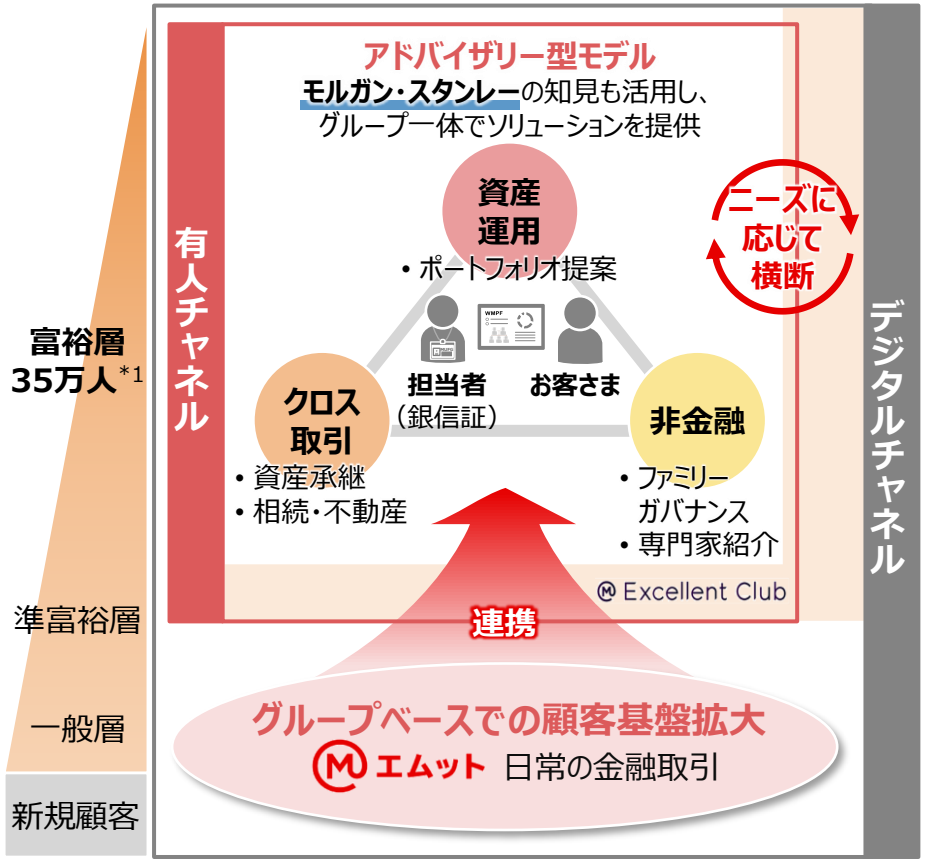
*1 銀行・信託の新規口座開設数 *2 広告出稿エリア(銀行支店がある地域）、18～44歳

MUFG

富裕層戦略

ウェルスマネジメントビジネスの全体像

- お客さまのニーズに応じて有人・デジタルチャネル横断でサービスを展開
- 顧客基盤拡大とグループ連携・提案の質向上を通じて成長基盤を構築



富裕層向け会員組織を通じた接点強化・取引拡大

預かり残高起点 → 日常取引 → コンサルティング

Excellent Club

会員数 **75**万人　預かり残高 **50**兆円

本邦初
銀行預かり残高連動型カード

銀行・信託・証券一体のリモートアドバイザリー

預かり残高のリテンション　取引付着　安心感

今後　ネット証券を含むグループ横断で顧客資産を捉え、ニーズに応じた適切なアプローチを通じ、ウェルスマネジメント領域への連携強化

ビジネス拡大に向けた主な取り組み

- サービス拡充・銀証連携の高度化も進めながら、モルガン・スタンレーの知見を活用した提案の質向上も併せ、WMビジネスを拡大

サービス・商品拡充
- 運用・貸出商品を拡充。26年度より有価証券担保ローン提供開始

銀証連携の高度化
- 銀行起点のプロファイリング機能を強化し、運用提案体制を高度化

テクノロジー活用
- モルガン・スタンレーの知見を活用し、ポートフォリオ・リスク管理高度化
- 提案事例・マーケット情報等から、AIが提案内容を支援

資産運用を軸としてビジネスを拡大し、中長期成長を実現

MUFG

価値共創アプローチ

重点領域における活動の深化

「成長戦略17分野」の動きとも整合させ重点領域を探索・見極めながら、事業本部の成長を支える柱を創出

宇宙

衛星データ活用による
不動産担保評価のプロセス合理化

出資先*1 → 衛星データ → 銀行（不動産担保）

1. 衛星×地図データで基本情報を確認
2. AI活用で建物・物件変動を検知

GX（系統用蓄電池）

系統用蓄電池の実装に向け
関西電力Grとファンド組成

- MUSEC*2：出資
- 信託：アセットマネジメント
- 銀行：プロジェクトファイナンス
- MUMSS：投資家招聘・FA

グループ一体でPJ支援

GX（BaaS*3）

BaaS事業共創を起点に
日立Grとの協業本格化

Phase 0（実証実験）→ Phase 1（共創投資）→ Phase 2（BaaS事業拡大に向けたファイナンス）

MoU締結（26/3月）

複数アセットでのビジネス機会創出

半導体

MUFGの新たな機能（PAS*4）で、
半導体高度人材育成支援

PAS：企業版ふるさと納税
- 財源 → 菊陽町 → 大学共同施設
- 半導体関連企業

共同研究
人材確保

コンテンツ

新たなファイナンス手法の
拡充に向けた活動を推進

フィルムファンド出資

K2P Film Fund

K2 PICTURES：ファイナンス手法拡充

製作委員会方式 → ファンド方式

官との対話

- **総務省**の協議会に委員参加
- **経産省**の公募事業を受託

自動運転

産業キープレイヤーが一堂に会する
イベントを主催し社会実装を促進

『自動運転フォーラム2026』主催



（日経BP特設サイト）

*1 衛星データサービス株式会社　*2 MUFGサステナブルエナジー　*3 Battery as a Service
*4 フィランソロピー・アレンジメント・サービス：企業版ふるさと納税制度の活用を中心とした法人からの寄付仲介により産業の高度化や競争力強化をめざすMUFGのサービス

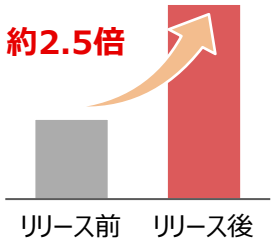
MUFG

インベストメントチェーンの拡大 –事業本部間協働

RD MUFGのiDeCo

eMAXIS Slimシリーズを取り揃えた「スリムコース」を新設

申込数
- スリムコース リリースにより倍増*1



D-Canvas 加入者の資産形成をサポート

信託 — 銀行
MUFG 4社で取扱
MUMSS — eスマート証券

GCIB 欧州インフラデットファンド

欧州インフラデットへの持続的な投資機会を提供

ファンド組成力

ALBACORE CAPITAL GROUP 運用
MFS*3 管理

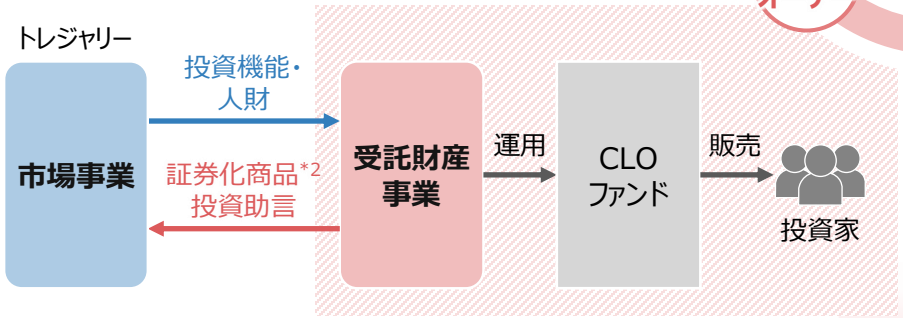
投資家接点を活かし、欧州プロファイと投資資金をつなぐ

GCIB ソーシング
FSG MUMSS 販売



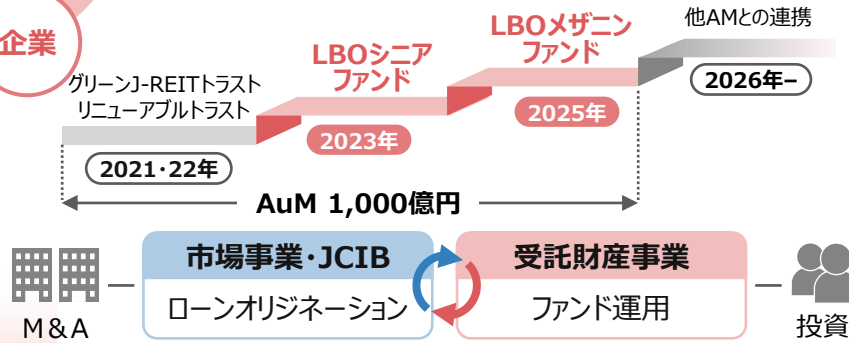
市場 証券化商品ファンド

トレジャリー知見を活用したCLOファンドの外販を開始



市場・JCIB 国内LBOファンド

LBOファイナンス市場に新たな資金提供の手段を創出



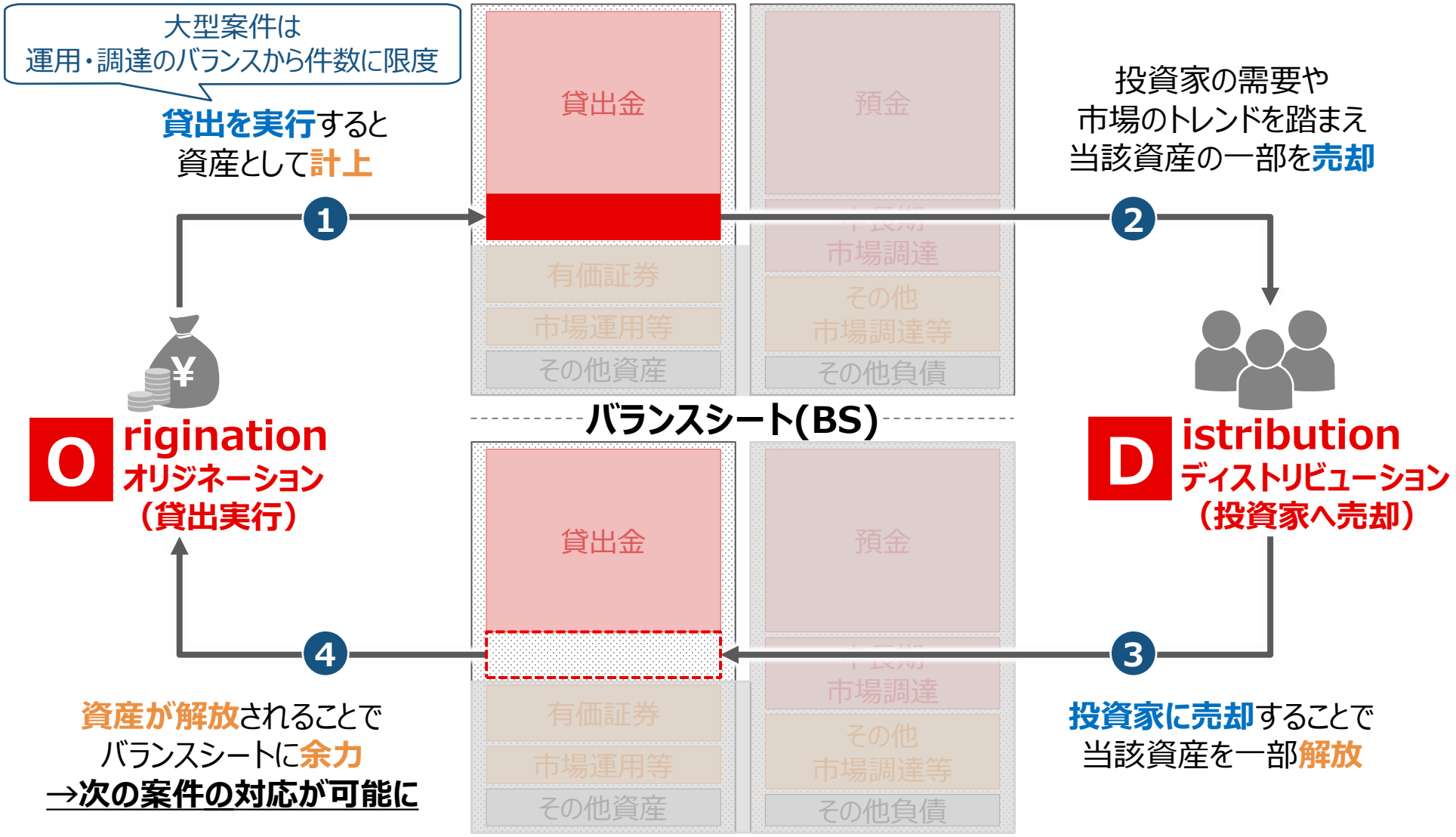
企業・投資家を結び、成長投資の好循環を創出する金融プラットフォーマーへ

*1 1日当たり平均の比較（リリース前：2025年1月～12月、リリース後：2026年3月5日～23日）　*2 CLO・不動産担保付きローンファンド
*3 MUFG Investor Services Holdings Limited

MUFG

O&Dビジネスとは?

資金ニーズと運用ニーズの両方に応えながらより多くの案件を実現する　資産回転型ビジネス

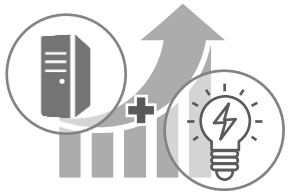


大口資金需要に応え続けるO&Dビジネス

旺盛な資金需要

プロジェクトファイナンス（PF）

- AI投資加速やインフラ需要による大型プロジェクトの資金需要増



M&Aファイナンス

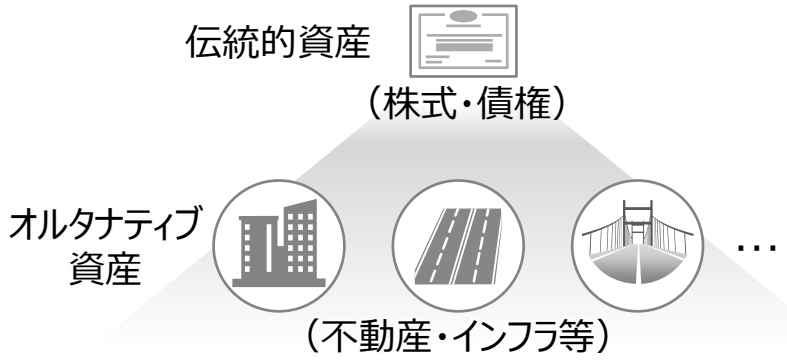
- 米国を中心とした堅調な経済成長による底堅いM&Aニーズ



機関投資家等

機関投資家に集まる資金が増加

- 投資対象が多様化



MUFG

PFのノウハウと実績、モルガン・スタンレーとの提携関係 ＋ 機関投資家ネットワークに強み

一方、自国通貨に比べ外貨資金量には一定の制約あり

限られたアセットで如何に多くの案件を手掛けるかがカギ

O rigination オリジネーション（融資組成）

- 高度なソリューション力でローンを組成・引受

⇒ **手数料収益を収受**



D istribution ディストリビューション（分配）

- 引受ローンの一部を残し、残りを売却

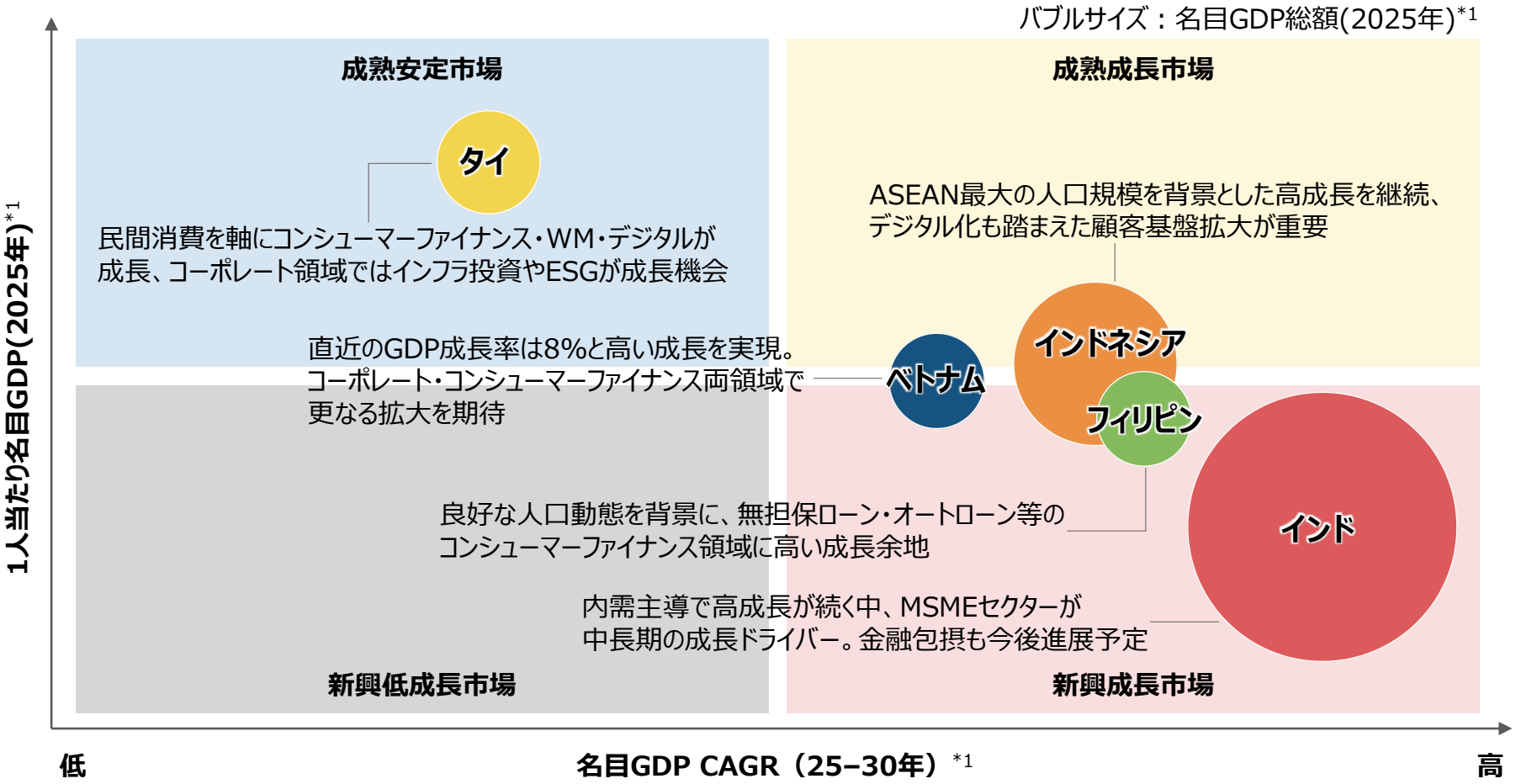


MUFG

アジア各国におけるMUFGの成長機会

– 各国の特徴と成長領域を踏まえ、国毎で最適な戦略を展開

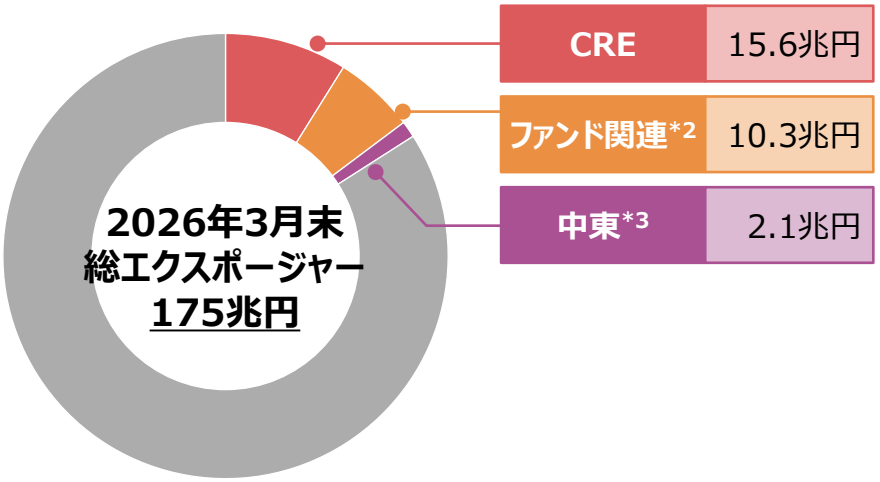
各国の特徴とMUFGにとっての成長機会



*1 出所：IMF

クレジットポートフォリオ

エクスポージャーの内訳*1



ファンド関連エクスポージャー*1,2

サブスクリプションファイナンス	7.8兆円	• 投資適格比率：9割以上 • デフォルト先なし
NAVファイナンス	1.7兆円	• 投資適格比率：9割以上 • LTV*6は低く設定し保守的に管理 • デフォルト先なし
BDC向けファイナンス	0.8兆円	• 投資適格比率：7割以上 • デフォルト先なし

CREエクスポージャー*1,4

国内	12.5兆円	• コーポレート： 75% • NRL*5等： 25%
米国	0.9兆円	• コーポレート： 70% • NRL等： 30%
アジア他	2.2兆円	• コーポレート： 92% • NRL等： 8%

中東向けエクスポージャー*1,3

サウジアラビア	0.7兆円	• 非日系： 96.6% • 要管理先以下： 1.7%
カタール	0.5兆円	• 非日系： 98.5% • 要管理先以下： 0.0%
UAE	0.6兆円	• 非日系： 84.3% • 要管理先以下： 0.0%
トルコ	0.3兆円	• 非日系： 77.1% • 要管理先以下： 0.0%

*1 銀行（含む現地法人、除くKS・BDI）と信託単体の合算値。中央銀行・インターバンク取引等は含まず。コミットメントライン空枠、市場性与信を含む。全て内部管理計数
*2 ファンド向けサブスクリプションファイナンス・NAVファイナンス・BDC向けファイナンスの合計値 *3 借入人所在国ベース。プロジェクトファイナンス等を含む
*4 記帳国ベース *5 Non Recourse Loan *6 Loan To Value

MUFG

統合報告書「MUFG　Report」



統合報告書　ご紹介動画

【統合報告書解説】三菱UFJフィナンシャル・グループ



YouTube・ログミーFinance公式チャンネル

アクセス方法

三菱UFJフィナンシャル・グループホームページ
＞IR（投資家情報）＞各種レポート
＞統合報告書・ディスクロージャー誌

https://www.mufg.jp/dam/ir/report/disclosure/pdf/ir2026_all_ja.p



世界が進むチカラになる。

変化の速い時代、全てのステークホルダーが課題を乗り越え、
持続可能な未来、新たなステージへと進もうとしています。
その思いを叶えるチカラになること、そのために全力を尽くすこと。

これが未来に向けて変わらない
MUFGの存在意義です。